

文部科学省委託調査研究事業

平成 26 年度

免許更新制高度化のための調査研究事業

報告書

玉川大学

本報告書は、文部科学省の委託調査研究事業として、玉川大学が実施した、平成 26 年度「免許更新制高度化のための調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。
したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

はじめに	1
第1章 事業の概要	
1. 研究課題	3
2. 調査研究の概要	3
3. 実施方法	3
4. 実施計画	4
5. 実施体制	5
6. 調査研究の具体的な内容と実施方法等	7
第2章 新たな必修領域・選択必修領域の構成	
ー「教員免許状更新講習の必修領域に関する需要調査」結果を中心にー	
1. 調査の趣旨と内容	8
2. 調査票と集計結果概要	8
3. 分析	12
1) 「教員免許状更新講習の必修領域に関する需要調査」の目的と方法	
2) 現行必修領域に対する受講者の優先度と受講による意識変化 (設問1ー5)	
3) 必修領域再編案に対する受講者の評価と理由 (設問6ー8)	
4. 新たな必修領域・選択必修領域の構成のために	36
第3章 新たな選択必修領域の内容構成	
ー「教員免許状更新講習の選択必修領域の構想内容に関する需要調査」 結果を中心にー	
1. 調査の趣旨と内容	39
2. 調査票	39
3. 分析	47
1) 「教員免許状更新講習の選択必修領域の構想内容に関する需要調査」 の目的と方法	
2) 新たな必修領域に対する受講者の優先度とその理由 (設問1ー3)	
3) 必修領域再編動向に対する受講者の評価 (設問6ー8)	

第4章 選択必修領域のテーマと求められる講習の在り方	
ー「教員免許状更新講習の選択必修領域の構想内容に関する需要調査」	
結果（続）を中心にー	56
1. ICT	57
2. 道徳教育	64
3. 小学校英語	67
4. 生徒指導	70
5. 特別支援教育	73
まとめー新たな必修領域・選択領域の構成のために	77
おわりに	79
資料	80

はじめに

玉川大学教師教育リサーチセンター長
玉川大学教育学部・教職大学院教授
森山賢一

本学は、文部科学省が平成26年度に募集した「平成26年度免許更新制高度化のための調査研究事業」の実施団体として「Ⅱ. 現代的な教育課題に対応するための実践的な講習内容・方法の研究開発事業」の研究課題のもとで応募し、採択された。本報告書は本調査研究事業の報告書である。

我が国における教員免許更新制度は平成21年4月に導入され、5年が経過し今日に至っている。

教員免許更新制度は、教員免許状に一定の有効期限を付して、その時々で求められる教員として必要とされる資質能力が確実に保持されるよう、必要なリニューアルを行う仕組みとして重要な役割を持っている。

導入以来、本制度の中心的存在である免許状更新講習は、各大学を中心とした免許状更新講習開設者の積極的取り組みによって、全国展開が可能となる環境が形づくられ、さらに、教員免許管理者である都道府県教育委員会による円滑な手続きによって、一定の成果をみている。

しかし、教育の現代的諸課題に対応できる免許状更新講習と現職研修との役割分担の在り方、教員免許更新制度の制度面、運用面での課題などの検討が必要である状況にあり、さらなる制度の充実が期待されている。このような状況を受けて、文部科学省は平成25年9月に「教員免許更新制度の改善に係る検討会議」を設置し、同制度の改善について検討を進め、平成26年3月18日に「教員免許更新制度の改善について（報告）」を取りまとめた。ここでの重要な論点の一つであった現行の必修領域講習内容の改善を踏まえ、本学における調査研究の目的については、教員免許更新制の改善において、新設科目である選択必修領域のテーマとその講習内容の開発研究を行うこととした。

このたび、上記の調査研究について、これまでの取り組みを踏まえて、公表するものである。まず第1章においては、事業の概要について述べ、さらに第2章においては、必修領域の講習内容に関する需要調査を実施し、その結果ならびに考察を示した。

第3章においては、選択領域、特に選択必修領域に該当する内容についての講習に関する需要調査を実施し、その結果ならびに考察を示した。

最後になったが、本委託事業は、外部有識者による委員会（検討委員会）を設置したが、当委員会の茨城大学名誉教授 菊池龍三郎主査をはじめ、田子健（東京薬科大学生命科学学部教授）、八尾坂修（九州大学人間環境学研究院教授）、金山康博（共栄大学教育学部教授）、宮田正博（町田市教育委員会学校教育部指導室長兼指導課長）、小田桐恵（川崎市教

育委員会教職員課長)、荒井篤子(株式会社時事通信出版局教育事業部部長)の諸氏にはご多忙の中、多くの研究に関するご示唆をいただき心より感謝したい。

また、実際の調査の実施にあたっては、本学の平成26年度開講の免許更新講習受講者に多くのご協力をいただいた。あわせて心より感謝申し上げたい。

第1章 事業の概要

1. 研究課題

Ⅱ. 現代的な教育課題に対応するための実践的な講習内容・方法の研究開発事業

2. 調査研究の概要

教員免許更新制の改善において新設予定である選択必修領域のテーマとその講習内容の開発研究を行うことを目的とする。

平成25年度調査研究では、現行の必修領域講習内容の改善を目的に、本学免許状更新講習受講者を対象とした需要調査を行い、内容構成上必須となる需要の旺盛な必修領域テーマを抽出した。今回の研究計画の中心は、今年度に本学免許状更新講習において、「教員免許更新制度の改善について（報告）」に示されている選択必修領域のテーマも視野に入れつつ、平成25年度の需要調査を踏まえたテーマによる講習を開設して、実際に受講者の反応をみることのできる環境のもとで講習内容・シラバス、教材等の開発を行うことであり、平成25年度の研究成果を十分に活かした研究となる。

今年度講習の省察を経て、免許状更新講習の改善に向けた本大学としての提案等を本年9月頃より開始したい。

3. 実施方法

① 方針の決定（5月上旬）

委託研究事務局において有識者による検討委員会を設置及び委員を任命し、研究計画等を検討。

② 予定される選択必修領域に対応して開設する平成26年度本大学更新制講習の内容、シラバス、教材の開発研究を行う（Ⅰ期5月中旬から7月下旬頃、Ⅱ期8月中旬から10月中旬）。

③ 講習の実施による内容、シラバス、教材の教育効果に関する分析調査（8月上旬から10月中旬頃）。

④ 受講者意識調査の実施と分析（8月上旬から10月中旬）。

⑤ 有識者による検討委員会を開催し、②③④の総合的な評価を行い、結果を取りまとめる。

⑥ 研究結果報告書を刊行し、選択必修領域の講習内容、教材、受講者意識を一般化する。

4. 実施計画

活動時期	活動の内容			
	①検討委員会	②授業内容	③意識調査	④分析・成果
6月	第1回 研究計画の作成 授業内容、教材作成方針の決定	・授業内容づくり教材作成の開始	・受講者意識調査（必要度選好度調査）調査対象の検討	
8月		更新講習の実施	意識調査の開始	意識調査分析
10月 2月	第2回 実施講習の検討 第3回 成果の取りまとめ・報告書	講習内容改善案作成、教材改善案の検討	意識調査の終了	意識調査結果集約 講習内容、教材等の完成

④分析・成果の追加事項

- 1) 本大学教師教育リサーチセンターHPにおいて、貴省の承認を得られた範囲ではあるが、開発した講習内容・シラバス、教材等を速やかに広く公表する。
- 2) 講習内容・シラバス、教材等を中心とした教員免許状更新講習に関する市販となる図書・ブックレット等を企画出版し、全国的な広い範囲に普及を図る。
- 3) 平成27年度の前半に、本大学教師教育リサーチセンター主催による教員免許更新制の改善に関する公開研究会を計画し、関係大学等の参加による情報の共有を図る。
- 4) 平成26年度に開設した本大学教育学研究科教師教育学コースにおいて、教員免許更新制に関する大学院レベルの教育を行う際に、受講者を通じた講習内容等の普及を目指す。なお、当該講義については、関係大学関係者等の受講を可能とする公開講座とすることで講習内容等の普及をより促進することも検討している。
- 5) これらの事項は、可能な限り平成26年度途中においても行い、平成27年度からの新たな教員免許状更新講習を準備する大学等に参考となるように配慮する。

5. 実施体制

(1) 検討委員会（外部有識者による委員会）

【構成】

主査	菊池龍三郎	常磐大学特任教授 元茨城大学学長 社会教育学、教育方法学
	田子 健	東京薬科大学生命科学部教授 教育計画論、教師教育学
	八尾坂 修	九州大学人間環境学研究院教授 教育経営学、教育行政
	金山 康博	共栄大学教育学部教授 学校経営、教員研修
	宮田 正博	町田市教育委員会 学校教育部指導室長兼指導課長
	小田桐 恵	川崎市教育委員会 教職員課長
	荒井 篤子	株式会社時事通信出版局 教育事業部長

【活動内容について】

- 5月 第1回検討委員会 研究計画の確定
- 10月 第2回検討委員会 実視した授業状況の報告を受けて、講習内容、シラバスの正式案を作成・受講者意識調査結果をもとにテーマに対する必要度選好度を検討する。
- 2月 第3回検討委員会 選択必修領域のテーマ、講習内容全般について検討を行い、報告書の取りまとめを行う。

(2) 講習内容・受講者意識調査チーム

【構成】

主査	森山 賢一	玉川大学教育学部・教職大学院教授 教育方法学、教師教育学
	田子 健	東京薬科大学生命科学部教授 教育計画論、教師教育学
	安藤 正紀	玉川大学教職大学院教授 特別支援教育、学校心理学
	太田 拓紀	玉川大学教育学部准教授 教育社会学・教師教育学
	豊田 昌史	玉川大学工学部准教授 関数解析学、不動点理論
	近藤 昭一	玉川大学教職大学院准教授 生徒指導論
	峯岸 誠	玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授

	社会科教育学
見富 信義	玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授 生徒指導論
宮田 正博	町田市教育委員会 学校教育部指導室長兼指導課長
小田桐 恵	川崎市教育委員会 教職員課長

【活動内容について】

講習内容・シラバスの作成、教材の開発を行うとともに、各テーマに対する受講者の必要度選好度を調査し、平成 27 年度に計画される選択必修領域の円滑な開始に向けて全国の更新制講習実施大学等の参考に供するための具体的な研究を行う。

(3) 実施事務局

【構成】

高橋 正彦	玉川大学教師教育リサーチセンター	事務長
今井 良子	玉川大学教師教育リサーチセンター	教員研修室課長
高木 豊	玉川大学教師教育リサーチセンター	教職課程支援室課長補佐
吉岡 美帆子	玉川大学教師教育リサーチセンター	教職課程支援室係長

【活動内容について】

事務長が事務統括を行う。そのもとで担当課長が実施計画の管理運営を行い、担当係長が事業内容にかかる業務を担当する。

(4) 調査協力機関

【名称】

南山大学
町田市教育委員会
川崎市教育委員会
株式会社 時事通信出版局

【研究協力の内容】

南山大学は各種の講座からなる教員免許状更新講習を実施している。特に「子どもの変化、子ども理解」について豊かな経験を持つ担当者があることから、本事業に関する調査票作成について助言を得る。川崎市、町田市両教育委員会は公立学校教員の教員免許受講の条件整備を行っていることから、同様に調査票作成及び必修領域のカリキュラムモデル案に関して意見を求める。時事通信社は広く教員免許更新制に関する情報を有することから本事業の期間中随時参考資料の提供依頼、情報の交換を行う。

【研究の協力体制】

調査研究協力機関の実施の体制は、有識者委員を經由して担当課との連携を図ることを基本とする。南山大学の有識者委員はないことから、同大学の教員免許更新制担当課・者との連携協力とする。

5. 調査研究の具体的な内容と実施方法等

本調査研究は、教員免許状更新講習の改善の方向に沿い、新設予定である選択必修領域の講習テーマと内容に関する開発を目的とするものである。「教員免許更新制度の改善について」（同制度の改善に係る検討会議・報告、平成26年3月18日）において、選択必修領域として、時宜に応じ社会の要請を踏まえた内容等4点※が示され、具体例として、現下の教育課題（小学校外国語活動、道徳教育）、「必修領域」から移すもの（学習指導要領の改訂の動向等、法令改正）及び国の審議会の状況等が挙げられている。これらは、本大学が受託して実施した平成25年度における更新講習高度化研究においても、受講者の望む講習内容として上位に位置づくものである。したがって、選択必修領域の意義に基づいた講習内容の設定が行われることは、更新講習の目的の達成が受講者の満足度の高い状況のもとでなされることを意味しており、講習内容の研究が求められるところである。

したがって、本学の平成26年度教員免許状更新講習において、新たに「生徒指導上の諸問題への対応」「これからの道徳教育」をテーマとする選択領域講習を追加開講し、従来から開設されていた「特別支援教育を考える」「外国語教育活動・小学校英語一小・中英語教育の視点から」「誰でもできるICT活用授業」と併せた5講座において、選択必修領域として新たに平成27年度に開設することを前提とした授業内容、教材開発、評価方法の開発研究を行うとともに、受講者のニーズを把握する意識調査を行うことで更新講習の改善に資する知見を生み出し、全国の大学の参考としたいと考えている。

実施手法は次の通りである。外部有識者からなる検討委員会を中心に、上記5講座の担当教員等からなる講習内容・受講者意識調査チームが、8月の更新講習実施前に講習内容の構成、吟味を行い、相当程度準備を重ねた内容での更新講習を実施する。講習受講者に対して、授業全般とテーマの必要度等の意識調査アンケートを実施し、調査結果データを学校種・免許種や年代別等に集計し分析を行うことで、次年度からの受講者層が拡大する選択必修領域における講習内容へと一般化する手続きの研究を行う。これら一連の研究成果を検討委員会で承認ののち、研究報告書等にとりまとめて、全国の大学等更新講習実施機関の参考に供する。

本研究の特徴は、上記の通り、実際に更新講習の講座を実地に開講し、受講者の反応が見える状態での開発研究を行うところにある。このために従来開講されている講座とともに、新規に認定を申請して行う上記2講座を加えて5講座、約200名の受講生の受講状況、反応を見ながら授業内容、教材の開発を行うものである。

- ・受講者を学校種・免許種や年代に応じてある程度区分することがふさわしい内容
- ・研修等を通じ一部の現職教員はある程度学んでいる可能性が高いものの、学んだ経験のない受講者の場合には、積極的に受講が望まれる内容
- ・多くの大学等において解説が可能と考えられる内容

第2章 新たな必須領域・選択必修領域の構成

— 「教員免許更新講習必修領域の内容に関する需要調査」結果を中心に—

1. 調査の趣旨と内容

平成28年度から開始される教員免許更新制度の改善、特に新たな必修領域、選択必修領域の在り方に資するため、教員免許更新講習受講者が、現行の必修領域に対してどのような評価をしているのか、すでにまとめられた必修領域の改善案に対してはどのような期待や要望を持っているのか、を明らかにすることを目的に「教員免許更新講習必修領域の内容に関する需要調査」を実施した。必修領域受講者216名を対象としたものである。調査目的については回答者の属性分析と合わせて再論する。

調査内容は10の設問からなる。

- 設問1 現行必修領域8項目のうち第1順位での受講希望項目
- 設問2 その選択理由（自由記述）
- 設問3 現行必修領域8項目のうち最下位での受講希望項目
- 設問4 その選択理由（自由記述）
- 設問5 講習受講による希望傾向の変更有無
- 設問6 更新講習必修領域再編の評価
- 設問7 新たに受講したい選択必修領域のテーマ
- 設問8 その選択理由（自由記述）
- 設問9 更新講習の情報源
- 設問10 フェースシート

2. 調査票と集計結果概要

用いた調査票は次の通りである。その後に集計結果の一覧をまず示し、設問ごとの分析を行うこととする。

教員免許状更新講習必修領域の内容に関する需要調査

本調査は、教員免許状更新講習必修領域（以下「必修領域」）の改善を目的としています。現行の「必修領域」の細目は次の 8 項目です。

- | |
|--|
| 1. 学校を巡る近年の状況変化 |
| 2. 教員としての子ども観、教育観等についての省察 |
| 3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。） |
| 4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題 |
| 5. 学習指導要領の改訂の動向等 |
| 6. 法令改正及び国の審議会の状況等 |
| 7. 様々な問題に対する組織的対応の必要性 |
| 8. 学校における危機管理上の課題 |

以下の設問にお答えください。

(設問 1) もっとも優先して受講したいと思った細目をひとつ選び、番号に○をしてください。

回答欄：

1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---

(設問 2) 設問 1 で優先度が高いとした理由を記してください。

回答欄：

--

(設問 3) 逆に、もっとも優先度の低かった細目をひとつ選び、番号に○をしてください。

回答欄：

1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---

(設問 4) 設問 3 で優先度が低いとした理由を記してください。

回答欄：

--

(設問 5) 設問 3 で優先度が低かった細目は、受講してその意識は変化したでしょうか。

(1. よい方へ変化した、2. 変わらない)

(設問 6) 「必修領域」を来年度から次のように再編する場合、あなたはどのように評価しますか。

以下のいずれかに○をしてください。

- 【再編案】・必修領域：全受講者に必要でかつ基礎的な内容に精選した共通内容 6 時間
・選択必修領域：受講者の関心の高い教育の現代的課題にテーマを絞った内容の複数講座から
選択可能 6 時間
・合計 12 時間を必修領域 6 時間、選択必修領域 6 時間として受講する

再編案の方に魅力を感じる	現在のものよい	わからない
--------------	---------	-------

集計結果の概要

必須領域 質問集計表	回答数 (%)	
Q1 (優先して受講したい細目)		
1 学校をめぐる近年の状況変化	29	13.4%
2 教員としての子ども観、教育観等についての省察	11	5.1%
3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	111	51.4%
4 子どもの生活の変化を踏まえた課題	45	20.8%
5 学習指導要領の改訂の動向等	5	2.3%
6 法令改正及び国の審議会の状況等	4	1.9%
7 様々な問題に対する組織的対応の必要性	1	0.5%
8 学校における危機管理上の課題	10	4.6%

Q2 (優先度が高い理由) 【自由記述】		
-------------------------	--	--

Q3 (優先度の低い細目)		
1 学校をめぐる近年の状況変化	9	41.7%
2 教員としての子ども観、教育観等についての省察	9	41.7%
3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	3	1.4%
4 子どもの生活の変化を踏まえた課題	7	3.2%
5 学習指導要領の改訂の動向等	33	15.3%
6 法令改正及び国の審議会の状況等	101	46.8%
7 様々な問題に対する組織的対応の必要性	22	10.2%
8 学校における危機管理上の課題	30	13.9%

Q4 (優先度が低い理由) 【自由記述】		
-------------------------	--	--

Q5 (優先度が低かった細目は受講後変化があったか)		
1 よい方へ変化した	107	49.5%
2 変わらない	99	45.8%

Q6 (必修領域再編案の評価について)		
1 再編案に魅力を感じる	159	73.6%
2 現在のものよい	26	12.0%
3 わからない	30	13.9%

Q7 (必修選択制導入に伴い、優先して受講したい項目)【2つ回答】		
9 国の教育政策や世界の教育の動向 *最初から〇してある項 (100%)		
10 英語教育	31	14.4%
11 道徳教育	47	21.8%
12 教育相談(いじめ・不登校対応を含む)	113	52.3%
13 進路指導・キャリア教育	20	9.3%
14 国際理解・異文化理解教育	23	10.6%
15 教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等)	63	29.2%
16 学校・家庭・地域の連携・協働	24	11.1%
17 防災教育	36	16.7%
18 食に関する指導(アレルギー対応を含む)	65	30.1%

Q8 (Q7でその内容を選んだ理由) 【自由記述】		
------------------------------	--	--

Q9 (更新講習の情報源)		
1 文部科学省のホームページなど文部科学省の情報	76	35.2%
2 勤務先学校にある講習一覧など勤務先で得た情報(出所が文部科学省を含む)	25	11.6%
3 開講大学(今回は玉川大学)のホームページなどの情報	84	38.9%
4 すでに講習を受講した人など人づての情報	20	9.3%
5 その他	9	4.2%

回答 (%)	
Q9 (更新目的の免許)【複数回答】	
1 幼免	71 32.9%
2 小免	105 48.6%
3 中免	83 38.4%
4 高免	78 36.1%
5 特支免	8 3.7%

(年齢)	
1 30代	89 41.2%
2 40代	60 27.8%
3 50代	65 30.1%

(性別)	
1 男	58 26.9%
2 女	155 71.8%

(在職する学校種)	
1 幼稚園	46 21.3%
2 小学校	92 42.6%
3 中学校	36 16.7%
4 高等学校	31 14.4%
5 特別支援学校	7 3.2%
6 中等教育学校	0 0.0%
7 教育委員会	2 0.1%
8 その他	9 4.2%

(職名)	
1 教諭	166 76.9%
2 助教諭	4 1.9%
3 養護教諭	0 0.0%
4 養護助教諭	0 0.0%
5 常勤講師	3 1.4%
6 非常勤講師	23 10.6%
7 その他	16 7.4%

3. 分析

1) 「教員免許状更新講習の必修領域に関する需要調査」の目的と方法

調査の目的

本調査は、教員免許状更新講習における必修領域の改善を目的として実施されたものである。教員は資格継続の必要から更新講習を受講する一方、自らの教育活動を振り返り、既存の知識を刷新して、指導力向上の契機にしたいという思いを抱いているはずである。では、彼らは更新講習に対して、具体的にいかなる内容を期待しているのか。現状のプログラムをどのように評価しているのか。さらに、今後はどのような内容を受講したいと考えているのか。以上の関心から、本調査では受講者の更新講習に対するニーズを明らかにし、今後の必修領域の改善に資することを目指すものである。

調査実施方法

調査回答者は、平成 26 年 8 月に玉川大学で催された教員免許状更新講習必修領域の全受講者である。全授業が終了したのちに、集合調査によって実施した。その結果、216 名からの回答を得ることができた。

回答者の属性（設問 10）

さて、調査回答者の属性を確認しておきたい(表 1、図 1～5)。性別は男性の 58 名 (27.2%) に対し、155 名 (72.8%) と女性が 7 割であった。年齢では、40 代 (28.0%)、50 代 (30.4%) がそれぞれ約 3 割である一方、30 代は 89 名 (41.6%) とやや多い。複数回答を可とした更新目的の免許種では、小学校が 105 名 (48.6%) と約半数であった。特別支援学校の免許はきわめて限られるが (3.7%)、幼稚園 (32.9%)、中学校 (38.4%)、高等学校 (36.1%) については、それぞれ 3～4 割程度であった。勤務校の種別では、小学校が 91 名 (43.3%) と最も多く、それに続いて、幼稚園 (21.9%)、中学校 (12.4%)、高等学校 (21 名) となっている。なお、中学校と高等学校の両方に回答する者がいたが (10 名、4.8%)、おそらく中高一貫校に所属する教員と推測され、「中学・高校」というカテゴリを設けている。職名は、168 名

表 1：調査対象者の基本的属性

(性別)		
男性	58	(27.2%)
女性	155	(72.8%)
(年齢)		
30代	89	(41.6%)
40代	60	(28.0%)
50代	65	(30.4%)
(更新目的免許) ※複数回答可		
幼稚園免許	71	(32.9%)
小学校免許	105	(48.6%)
中学校免許	83	(38.4%)
高等学校免許	78	(36.1%)
特別支援学校免許	8	(3.7%)
(勤務校)		
幼稚園	46	(21.9%)
小学校	91	(43.3%)
中学校	26	(12.4%)
高等学校	21	(10.0%)
中学・高校	10	(4.8%)
特別支援学校	7	(3.3%)
教育委員会	2	(1.0%)
その他	7	(3.3%)
(職名)		
教諭	168	(79.6%)
助教諭	4	(1.9%)
常勤講師	4	(1.9%)
非常勤講師	23	(10.9%)
その他	12	(5.7%)

注：有効回答のみを集計

(79.6%) と 8 割が教諭であった。

図1: 調査対象者の男女比(N=213)

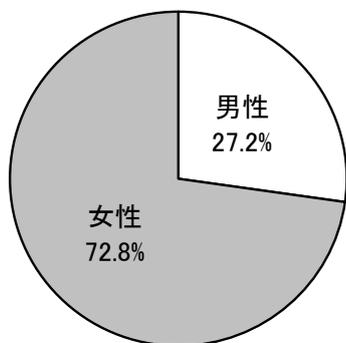


図2: 調査対象者の年代(N=214)

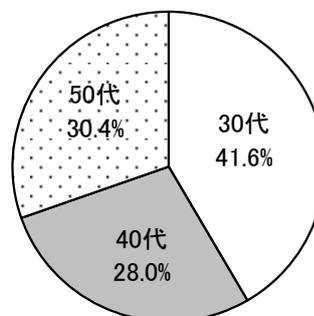


図3: 調査対象者の更新目的免許(N=214, MA)

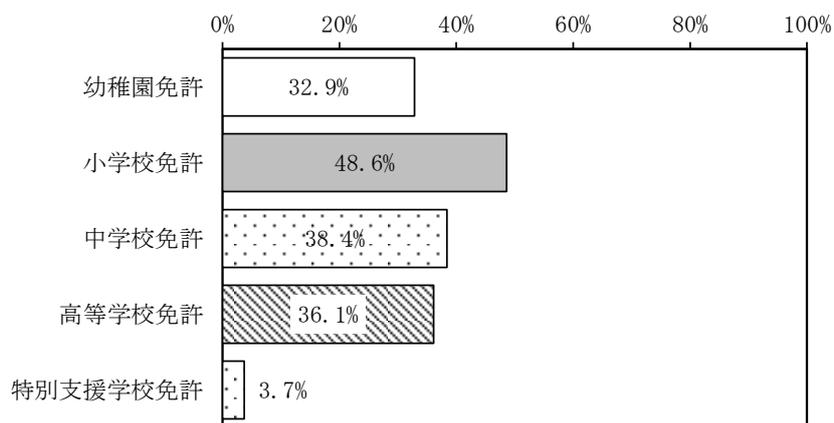


図4: 調査対象者の勤務校(N=211)

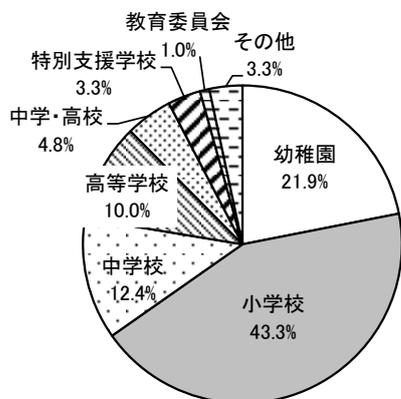
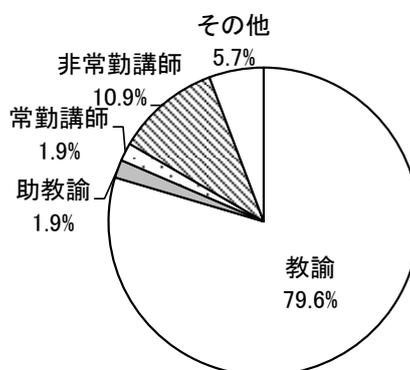


図5: 調査対象者の職名(N=211)



更新講習の情報収集源（設問9）

さて、以上の受講者がどこから更新講習の情報を得たのかを示したのが、図6である。「開講大学（今回は玉川大学）のホームページなどの情報」が39.3%、「文部科学省のホームページなど文部科学省」が35.5%と、この2つが目立っている。

一方、年代別、勤務校別にみると（表2）、30代と40代では、文部科学省を情報源とした者が4割を占めるのに対し、50代になると、開講大学の情報が約6割（58.5%）で最も多く、 χ^2 検定で有意差が生じている。より詳細な調査が必要であるが、50代は本学の卒業生であることや、勤務校の近隣に居住しているなどの地理的要因が強く働いた結果、あらかじめ本学で受講することを想定し、情報を得ていた可能性があるだろう。一方、受講者の勤務校によっては、情報収集源に違いはみられなかった。

最後になるが、更新講習の受講者に対し、昨年も玉川大学にて同様の調査を実施している。平成25年と本年の値を比較したのが図7である。その結果、 χ^2 検定で有意差はみられず、両年は同様の傾向であったことが分かる。

図6: 更新講習の情報収集源(N=214)

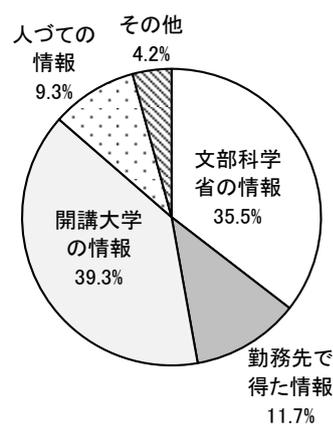
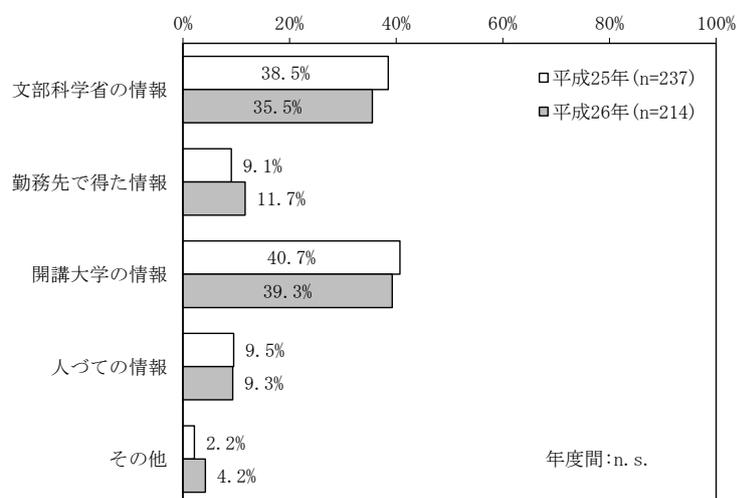


表2: 更新講習の情報収集源（年代・勤務校別）

	文部科学省の情報	勤務先で得た情報	開講大学の情報	人づての情報	その他
年代 ($p < 0.5$)					
30代 (89)	40.4%	15.7%	32.6%	7.9%	3.4%
40代 (60)	40.0%	10.0%	28.3%	15.0%	6.7%
50代 (65)	24.6%	7.7%	58.5%	6.2%	3.1%
勤務校 (n. s.)					
幼稚園 (46)	39.1%	15.2%	26.1%	15.2%	4.3%
小学校 (91)	35.2%	15.4%	41.8%	4.4%	3.3%
中学高校 (57)	33.3%	7.0%	43.9%	10.5%	5.3%
全体 (214)	35.5%	11.7%	39.3%	9.3%	4.2%

図7: 更新講習の情報収集源（年度間比較）



2) 現行必修領域に対する受講者の優先度と受講による意識変化（設問1-5）

本調査の内容分析に移りたい。まず設問1では、教員免許状更新講習の必修領域において、参加者が優先的に受講したいとする細目とは何か、また、優先度の低い細目は何かを探ることにより、更新講習に対する受講者のニーズを検証するものである。

具体的に、現在の更新講習必修領域で設定されているのは、次の8つの細目である。

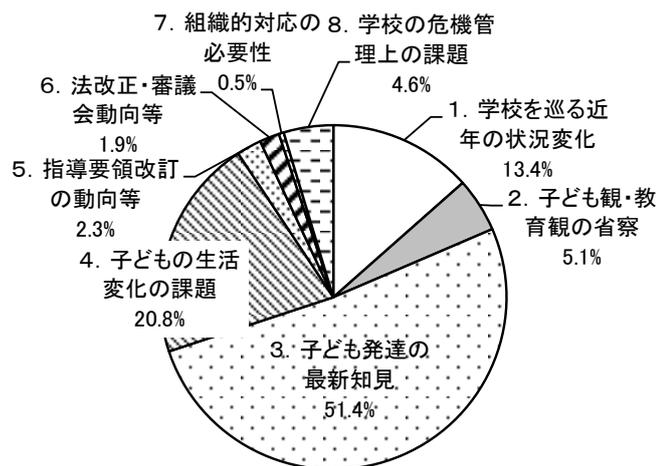
1. 学校を巡る近年の状況変化
2. 教員としての子ども観、教育観等についての省察
3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題
5. 学習指導要領の改訂の動向等
6. 法令改正及び国の審議会の状況等
7. 様々な問題に対する組織的対応の必要性
8. 学校における危機管理上の課題

以上のなかから、受講者が優先度の高い、あるいは優先度の低いと考えている項目を量的に明らかにする。さらに、そのようにみなす理由について、自由記述欄から検討していく。

a. 優先度のもっとも高い細目（設問1）

調査票の設問1では、上述の8つについて、「もっとも優先して受講したい細目をひとつ選び、番号に○をしてください」と択一式でたずねている。その結果を集計したのが図1である。もっとも高い比率を示したのが、「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」(51.4%)で、約半数を占めている。次に、「4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題」(20.8%)、「1. 学校を巡る近年の状況変化」(13.4%)が続いている。

図1: もっとも優先して受講したい細目(必修領域)
(N=216)



では、こうした傾向は年代や勤務校によって異なるのだろうか。表1は受講者の年代と勤務校ごとに、優先する細目に相違がみられるかを検証したものである。 χ^2 検定の結果、

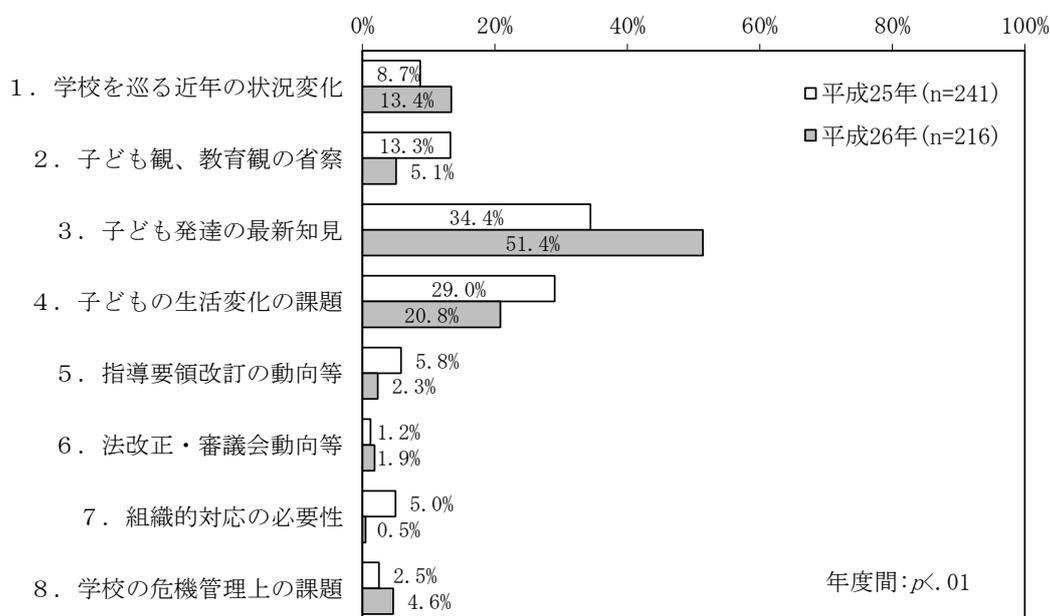
年代、勤務校ともに有意差が生じなかった。すなわち、いずれの年代や勤務校においても、上記の傾向が等しくみられたことになる。

表1:もっとも優先して受講したい細目（必修領域）年代・勤務校別

		1. 学校を巡る近年の状況変化	2. 子ども観、教育観の省察	3. 子ども発達の最新知見	4. 子どもの生活変化の課題	5. 指導要領改訂の動向等	6. 法改正・審議会動向等	7. 組織的対応の必要性	8. 学校の危機管理上の課題
年代 (n. s.)									
30代	(89)	13.5%	5.6%	55.1%	19.1%	2.2%	1.1%	0.0%	3.4%
40代	(60)	8.3%	3.3%	55.0%	21.7%	3.3%	1.7%	0.0%	6.7%
50代	(65)	16.9%	6.2%	43.1%	23.1%	1.5%	3.1%	1.5%	4.6%
勤務校 (n. s.)									
幼稚園	(46)	4.3%	10.9%	52.2%	23.9%	0.0%	2.2%	0.0%	6.5%
小学校	(91)	13.2%	5.5%	54.9%	16.5%	4.4%	2.2%	0.0%	3.3%
中学高校	(57)	19.3%	1.8%	50.9%	17.5%	0.0%	1.8%	1.8%	7.0%
全体	(216)	13.4%	5.1%	51.4%	20.8%	2.3%	1.9%	0.5%	4.6%

さて、昨年の平成25年に本学で実施した免許状更新講習調査でも、同様の調査項目がある。本年の結果と比較し、変化が生じているかを検証した。図2をみると、 χ^2 検定の結果、年度間には有意差が生じていたことが分かる。具体的には、「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」の比率が、昨年の34.4%から今年は51.4%と、大幅に増加している。受講者の属性の変化にもよると思われるが、この細目に対する関心がとりわけ今年になって高まったといえる。

図2:もっとも優先して受講したい細目（必修領域）年度間比較



b. 自由記述にみる優先度の高い理由（設問2）

次に設問2では、「設問1で優先度が高いとした理由を記してください」と自由記述欄を

設けている。ここから、優先度が高い細目を選んだ具体的な理由について概観していきたい。先にみたように、「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」、「4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題」、「1. 学校を巡る近年の状況変化」が、優先度の高い項目群であった。この3つについて、回答の傾向を整理しよう。

○「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」の選択理由

「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」を優先度が高いとした回答は全体の51.4%と、約半数を占めていた。その理由を概観すると、主に次の3点にまとめられよう。

①現実に子どもの発達に関わる課題に直面し、その解決を迫られているため

現実にいま直面している問題は、特別支援教育のあり方であった。以前からいろいろとこの事についての勉強は行ってはいたが、日々増えていく支援を必要とする子の本質を教えてもらえて、今後の保育に役立てたい。(40代、女性、幼稚園勤務)

現在働く現場(幼稚園)教育で最も必要である内容だと思ったので。障害を持つと思われるグレーゾーンの子が増えていると思ったので。(40代、女性、幼稚園勤務)

今、目の前にいる子どもたちと接する上で一番学びたい事柄だから。

(30代、女性、小学校勤務)

通常級にもいる特別支援を必要とする子どもたちの発達について詳しく知り、知識を身につけ、指導・支援に生かしたいから。(30代、女性、小学校勤務)

発達障害を持つ子が増加しているように思われる。専門的な知識を身につけたいと考えたため。(40代、女性、小学校勤務)

今は普通学級において特別支援を要する児童が必ずと言っていいほどいる。やはり脳の仕組み、心理等は児童対応に際し参考になる。(40代、女性、小学校勤務)

実際に通常級においても多くの特別支援を必要とする生徒がいる。が、人間というのはデコボコして当然。ゆえに、通常級であっても学ぶべきと感じるしすぐ生かせると感じているため。(40代、女性、中学校勤務)

子どもの多様化に対して、とまどうことが実際にあるので。

(40代、男性、高等学校勤務)

日々の教育活動の中で、普通科の高校でも発達障害と思われる生徒や心のケアが必要と思われる生徒の増加を感じ、適切な対処のしかたを知りたいので。

(50代、女性、高等学校勤務)

このように、回答の多くに共通しているのは、子どもの発達に関する課題に現在直面しているため、その対応法を知りたいという点である。背景には、特別な支援を要する児童・生徒が増えたために、対応に多くの教員が苦慮しており、今後の指導上、有意義な知見を得たいという願望がみてとれよう。

②学術的・専門的な見地から最新の知見を得たいため

研修に参加してもなかなか脳科学、心理学の話をきく機会が少ないため。

(20代、女性、幼稚園勤務)

子どもの気になる姿に関して専門家の先生から具体的な話が聞ける貴重な場なため。

(30代、女性、幼稚園勤務)

特別支援教育を行う上で脳科学からのアプローチは重要だと思うから。

(30代、男性、小学校勤務)

専門的なお話はこういう機会でないといけないから。(30代、男性、小学校勤務)

通常学級におけるさまざまな児童について脳科学、心理学から専門的知識がほしいから。

(50代、女性、小学校勤務)

様々な発達障害を抱えた子どもが増加しており専門家の知見をききたい。

(30代、女性、中学校勤務)

教員となり、20年目となり、自分が学生だった頃、履習した青年心理学、児童心理学が現行と異なる点などが生じていないか知りたいと感じました。

(40代、男性、中学・高校勤務)

続いて多くみられるのは、学術的な観点から専門性の高い最新の知見を得たいという回答である。おそらく子ども理解については、自治体等が主催する研修のなかでも取りあげられる内容であろう。しかし、大学で実施される免許更新講習であるからこそ、学術的な

専門性に依拠した内容に触れたいという期待がうかがえる。

③心理学に対する自らの興味・関心のため

心理学に興味があった。(30代、男性、小学校勤務)

自身が教育心理に高い関心を持っているので、学校(所属校)が教育心理に関する理解があまりにも低いため。

(30代、女性、小学校勤務)

最後に、上記のように、心理学に対する学問的興味を理由とする回答もいくつかみられている。

○「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の選択理由

「4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題」を優先度が高いとしたのは20.8%と2番目である。その回答は大きく分けて、次の2つにまとめられよう。

①子どもの変化に伴う課題に直面し、その解決に資するため

幼稚園で働くものとして、生活の変化、指導方法を具体的に知りたかった。社会の変化、ニーズにより新たな課題は後を絶たないので。(30代、女性、幼稚園勤務)

子どもの変化は現実を感じていてその対応等すぐに活用できる内容だと考えるから。

(30代、女性、小学校勤務)

私自身、子どもの変化を感じると共に指導の難しさを感じていたので、これからの指導の参考になればと思いました。(50代、女性、小学校勤務)

子どもの生活が年々変化をし、学校でもその対応が様々な面で広がっている。

(50代、女性、中学校勤務)

子どもたちの様子が近年かわってきているように思います。原因や対処方法を知りたいです。(50代、女性、特別支援学校勤務)

以上の回答から読み取れるのは、子どもの変化に伴い、従来の考え方や指導では対応できなくなっているといった教員たちの認識であろう。変容しているとされる子どもの実態を把握し、それへの対処法を講習内容に期待していると推測される。

②家庭環境の変化を把握し、指導に生かしたいため

近年の子どもたち、ご家庭の様子を見ていると、とりまく環境や社会がかわってきて

いると感じる面があるので、教師側の対応法が知りたかった。(40代、女性、幼稚園勤務)

10年前と比べ、社会や家庭での保育事情が大幅に変化してきているので保護者対応や先生側のやらなくてはならないことを知りたい。(50代、女性、幼稚園勤務)

子ども達が家に帰った後の過ごし方、家族形態(親が実の親であるか、職業は、生い立ちは、家族の病理)などが学校生活にも大きな影響があるので。

(50代、女性、小学校勤務)

先の①と大いに関係があるが、とりわけ家庭の変化を知りたいという意見が顕著であった。子どもたちの変容は家庭の変化に連動して生じているという、教員たちの認識があらわれているといえるだろう。

○「学校を巡る近年の状況変化」の選択理由

さて、「1. 学校を巡る近年の状況変化」の優先度を最も高いとした回答は、全体の13.4%で3番目であった。自由記述の回答は主に以下の3点に分類できよう。

①身近の環境しか把握できず、客観的に全体の変化の現況を把握したいため

働いていると目の前のことに追われ近年の事がわからないため。

(30代、女性、幼稚園勤務)

現在の社会における情報のスピードはめまぐるしく、教師をしているとつかみきれない部分が多くあると考えるから。

(20代、男性、小学校勤務)

身近なところでの課題は知っているが、全国的な状況がどうなっているのか広い範囲のことを知りたかったから。

(50代、女性、小学校勤務)

社会の変化が激しく、客観的にみていく時間がないので、客観的な視点から現在の状況を把握したいので。

(30代、男性、高等学校勤務)

学校の中だけでは他校種や全国的な動向がわからないので。

(50代、男性、高等学校勤務)

教員として勤務校における日常の職務に追われているため、学校や社会の全般的な変化に疎くなっていると自己認識がうかがえる。全体の変化を概観し、相対的、客観的な視

点を得て、自分の学校や教育活動を見つめ直したいとことであろう。

②学校の変化に伴う課題に直面し、その解決に資するため

近年、学校をめぐる状況（子ども、保護者を含めて）はとても変化していると感じ、課題をどうとらえ取り組んでいったらよいか知りたいから。（30代、女性、小学校勤務）

学校の安全神話が通じなくなってしまった現在、またどんなりスクがふりかかってくるもおかしくない現在、そのマネジメントのあり方を身につけたいと考えたからです。

（50代、男性、小学校勤務）

必ずしも多くはないが、学校の変化に伴って新たな課題が生じる可能性があり、その解決に資するためという意見もみられた。

③現場からしばらく離れており、近年の状況を把握しておきたいため

ブランクがあるため、これから復帰するためには必要であると感じたから。

（40代、女性、中学校勤務）

教員免許状を取得してから何年も時間が経っているので。現場から少し離れていてブランクがあったので近年の状況の変化が知れたかった。（30代、女性、中学・高校勤務）

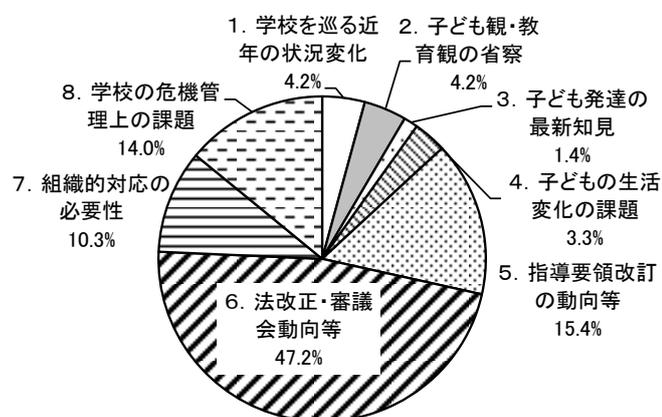
さらに、何らかの事情で現場からしばらく離れていたため、近年の状況の変化を把握しておきたいという理由も若干であるが記されていた。

c. 優先度のもっとも低い細目（設問3）

以上は優先的に学びたいという、需要の高い内容について検証したものである。その一方で、設問3では、「もっとも優先度の低かった細目をひとつ選び、番号に○をしてください」と、択一式でたずねている。その結果が図3である。

最も比率の高かったのは、「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」で47.2%と、全体の約半分を占めている。その次が、「5. 学習指導要領の改訂の動向等」の15.4%で、以下、「8. 学校における危機管理上の課題」の14.0%、「7. 様々な問題に対する組織的対応の必要性」の10.3%と続いている。

図3:もっとも優先度の低い細目（必修領域）
(N=214)



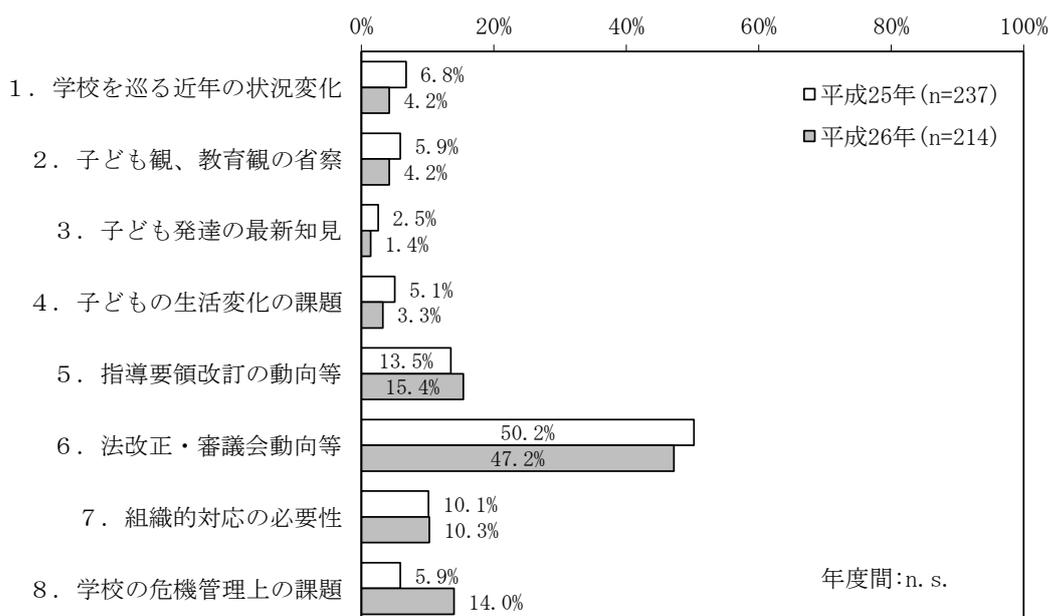
さて、上記の回答傾向を、年代別、勤務校別に集計し、有意差が生じているかを検証したのが表2である。 χ^2 検定の結果、年代には有意差が生じておらず、いずれの年齢層であっても回答に違いがないことが分かる。一方、勤務校については有意差がみられる。詳細にみると、幼稚園教員における「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」の回答の比率が71.7%と突出して高くなっている。この細目に対する優先度が、幼稚園教員に関してはとりわけ低いということになる。

なお、優先度の高い細目と同様、昨年の調査と比較すると（図4）、回答の傾向に大きな違いはみられなかった。 χ^2 検定でも有意差がなく、両年とも同様の結果であったといえよう。

表2: もっとも優先度の低い細目（必修領域）年代・勤務校別

	1. 学校を巡る近年の状況変化	2. 子ども観、教育観の省察	3. 子ども発達の最新知見	4. 子どもの生活変化の課題	5. 指導要領改訂の動向等	6. 法改正・審議会動向等	7. 組織的対応の必要性	8. 学校の危機管理上の課題
年代 (n. s.)								
30代 (87)	4.6%	3.4%	3.4%	4.6%	17.2%	42.5%	10.3%	13.8%
40代 (60)	5.0%	3.3%	0.0%	3.3%	8.3%	53.3%	10.0%	16.7%
50代 (65)	3.1%	6.2%	0.0%	1.5%	20.0%	46.2%	10.8%	12.3%
勤務校 ($p < 0.5$)								
幼稚園 (46)	2.2%	2.2%	0.0%	4.3%	8.7%	71.7%	6.5%	4.3%
小学校 (90)	4.4%	5.6%	2.2%	2.2%	15.6%	35.6%	13.3%	21.1%
中学校 (56)	5.4%	1.8%	0.0%	5.4%	21.4%	44.6%	7.1%	14.3%
全体 (214)	4.2%	4.2%	1.4%	3.3%	15.4%	47.2%	10.3%	14.0%

図4: もっとも優先度の低い細目（必修領域）年度間比較



d. 自由記述にみる優先度の低い理由（設問4）

設問4においては、優先度の高い細目と同様、「設問3で優先度が低いとした理由を記してください」と、自由記述でたずねている。ここでも、その回答を整理しておきたい。設問3で回答の比率が高かった「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」、「5. 学習指導要領の改訂の動向等」、「8. 学校における危機管理上の課題」の3項目について確認している。

○「法令改正及び国の審議会の状況等」の選択理由

「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」は、47.2%と圧倒的に高い比率を示していた。回答の内容を精査すると、主に次の2点に要約されよう。

①日常の職務に直結しないため

法律のもとで保育をおこなっているが、現場に出ているときには少し遠く感じてしまう内容であったから。

（30代、女性、幼稚園勤務）

知っておくことは大切だが明日の指導にすぐ生きる内容とは言えない為。

（40代、女性、幼稚園勤務）

知っておくべきことなのは分かるが、それよりも子どものためにやるべきこと、知りたいことがたくさんあるから。

（30代、女性、小学校勤務）

現場とは離れており、緊急重要性は低い。（40代、男性、小学校勤務）

学んだ知識が職場ですぐに活用できるものではないから。（40代、女性、小学校勤務）

理解していることが必要なことは認めます。が、目の前の児童・生徒の理解と指導をてんびんにかけた場合、この項目の優先度は低くなり管理職を中心とした上位組織にその責を追っていただきたいと考えたからです。（50代、男性、小学校勤務）

現場で日々教えていることと法的な事柄にはあまり関係がないと思ったため。

（50代、女性、小学校勤務）

日々の仕事の中でなかなか目が向かない。（50代、女性、中学校勤務）

現場においてくるのはその結果であるので知ることはよいが、もっと具体的に勉強したい領域が多々あるため。

(40代、女性、高等学校勤務)

確かに法令を変更して理解することも大切であり優先しなければならないが、担任、部活、進路、入試広報ではそちらが最優先になってしまいます。

(50代、男性、高等学校勤務)

法令等について重要なことは認識しているが、多くの回答からうかがえるのは、日々の教育活動に直結していない内容であることから、その重要性や緊急性を実感できないという点である。

②自分自身でも知ることができる内容のため

学校現場においてきた時点でも学べる（知れる）から。(30代、女性、中学校勤務)

正直、冊子でもらって読んでおけばよいくらい。(40代、女性、中学校勤務)

一般的な知識として知っていれば良いと考えるから。(50代、女性、高等学校勤務)

いくつかの回答に共通しているのは、自分自身で学習できる内容とみなしている点である。それゆえ、更新講習のなかで取りあげること、大きな意義を見いだせていないと考えられる。

○「学習指導要領の改訂の動向等」の選択理由

「5. 学習指導要領の改訂の動向等」の優先度が低いとしたのは15.4%であった。その自由記述における回答は、次の3点に要約されよう。

①他の講習会、研修等ですでに取りあげている内容のため

各学校の研修や自治体の教育センターにおける研修、また校内研究等において、かなりやってくる。(30代、男性、小学校勤務)

研修等が行われる機会が多い項目である。(50代、女性、小学校勤務)

自分の所属している地域でも5に関する講習が開かれているため。

(40代、男性、中学校勤務)

このように、学習指導要領については、別の研修でも比較的よく取りあげられる内容であるため、あえて更新講習の場で実施する必要がないといった意見が多かった。

②学習指導要領の改訂から時間が経過しているため

現在、新学習指導要領が実施されているから。(30代、女性、小学校勤務)

すでに次の学習指導要領の内容に興味が移っている。(30代、男性、小学校勤務)

改訂後、時間が経過していたため。(40代、女性、中学・高校勤務)

続いて、すでに学習指導要領の改訂から時期を経ており、改めてこの時期に内容を理解する必要性を感じないとする回答が散見された。

③自分自身でも知ることができる内容のため

文科省等のホームページを見れば十分だと思ったから。必要な事項だとは理解しているが、あまり興味が湧かないので。(30代、女性、中学校勤務)

ある程度まで自分で知ることが可能であること、逼迫感がないことから。

(50代、女性、小学校勤務)

以上のように、自分自身で指導要領の内容を把握できるため、講習で取りあげる差し迫った必要性が感じられないという意見が若干みられた。

○「学校における危機管理上の課題」の選択理由

「8. 学校における危機管理上の課題」を優先度が低いとしたのは 14.0%であった。自由記述の内容は、おおむね次の2点に集約された。

①自治体や勤務校の研修にてすでに受講し、検討済みの内容のため

自治体の研修や学校で取り組んでいるから。(30代、女性、小学校勤務)

だいたいの内容が校内、市内の研修で承知していたことから。

(40代、女性、小学校勤務)

現在、各学校で危機管理については話し合われていると思うので。

(50代、女性、小学校勤務)

勤務校にて冊子、マニュアル等、説明の機会があったため。(30代、女性、中学校勤務)

大学で学ばなくとも、地区や県の研修で学べば充分であると感じたため。

(30代、女性、中学校勤務)

勤務校は高いレベルで危機管理をしているため。(40代、女性、中学校勤務)

以上のように、最も目立ったのは、すでに研修や勤務校で内容を取りあげ、対策を練っており、改めて取りあげるべき内容とは思えないという意見である。

②管理職が検討すべき課題であるため

学校を運営しているのは校長なので、立場として危機管理の話は実践に役立たない。

(30代、女性、小学校勤務)

管理職が最も必要であり、教諭の立場ではどうすることもできないから。

(40代、女性、小学校勤務)

副校長先生等が考えているから。(50代、男性、小学校勤務)

このように、危機管理については管理職が対策を練るべき事項であるため、教諭の立場である受講者にとっては、必要性の高い項目とは認識していないと推測される。

e. 優先度の低い細目に対する意識変化（設問5）

さて、こうした優先度の低い細目は、実際に受講してみても意識は変化したのであろうか。設問5では、「設問3で優先度が低かった細目は、受講してその意識は変化したでしょうか」とたずねている。回答は、「よい方へ変化した」、「変わらない」の2択である。図5はその回答を集計したものである。おおむね回答は等しく2分され、受講してよくなったと感じた者と、そのままの意識であった者に2極化することになった。

図5: 優先度の低い細目の受講後の意識変化 (N=206)

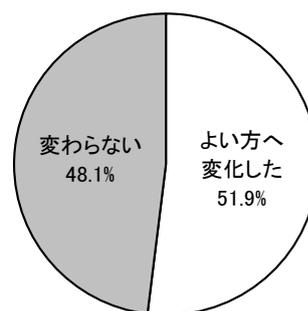
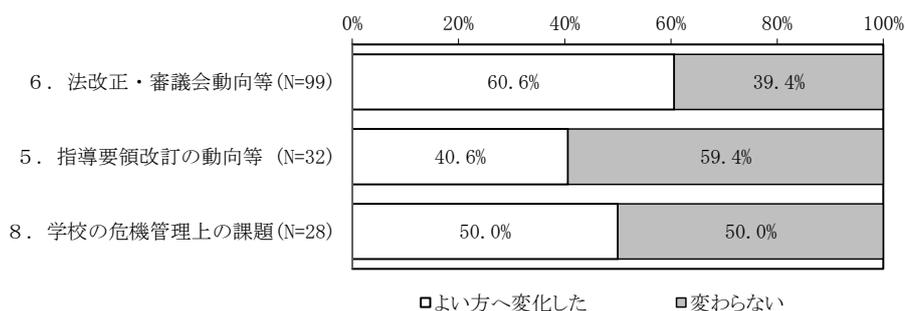


図6: 優先度の低い細目別受講後の意識変化



続いて、とくに優先度が低かった 3 つの細目ごとに、意識変化の傾向をみたのが図 6 である。

優先度が低いと回答した者が最も多かった「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」は、よい方へ変化した者の比率が 60.6%と、全体の比率からすると高くなっている。一方、「5. 学習指導要領の改訂の動向等」は 40.6%となっており、変化がなかったと感じた者が多かった。「8. 学校における危機管理上の課題」の回答はちょうど等分され、全体の傾向と同様であった。

3) 必修領域の再編案に対する受講者の評価と希望領域（設問 6－設問 9）

設問 6－設問 9 では、教員免許状更新講習における必修領域の再編案に対し、受講者がどのように評価しているかを検証するものである。

必修領域の再編案として、調査票では以下のように示した。

- ・ 必修領域：全受講者に必要でかつ基礎的な内容に精選した共通内容 6 時間
- ・ 選択必修領域：受講者の関心の高い教育の現代的課題にテーマを絞った内容の複数講座から選択可能 6 時間
- ・ 合計 12 時間を必修領域 6 時間、選択必修領域 6 時間として受講する

また、「必修領域」に選択制が導入された場合、選択可能な項目として、次の 9 項目を掲げ、尋ねている。

- ・ 英語教育
- ・ 道徳教育
- ・ 教育相談（いじめ、不登校対応含む）
- ・ 進路指導・キャリア教育
- ・ 国際理解・異文化理解教育
- ・ 教育の情報化（ICT を利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等）
- ・ 学校・家庭・地域の連携・協働
- ・ 防災教育
- ・ 食に関する指導

まず、再編案自体に対して、受講者が望ましいと考えているかを検証する。そして、選択制が導入された場合、具体的にどの項目を受講したいと想定しているかを明らかにする。その上で、その項目を選択した理由について、自由記述欄の回答から探るものとする。

なお、平成 26 年 10 月 2 日の文部科学省通知「免許状更新講習における選択必修領域の

導入について」によって、選択必修領域の概要が示され、平成 28 年度から導入されることになった。その結果、上記の 9 項目の内容から、「学校・家庭・地域の連携・協働」、「防災教育」、「食に関する指導」が除外されることになった。本調査時点（平成 26 年 8 月）では、詳細が明らかになっていなかったため、これらの項目がそのまま残っている。参考のためにこれらの項目の優先度も含めて検討してみたい。

a. 再編案への評価（設問 6）

設問 6 では、先述の再編案に対し、「再編案の方に魅力を感じる」、「現在のものでよい」、「わからない」と、3 択でたずねている。結果を集計したのが図 1 である。再編案に魅力を感じている者が 74.0%おり、大半の教員が望ましいとする案であることが分かる。また、年代と勤務校による違いについて検討したが（表 1）、 χ^2 検定で有意差が生じず、おおむね全般的に同様の回答傾向であるといえよう。

図1：必修領域再編案に対する評価
(N=215)

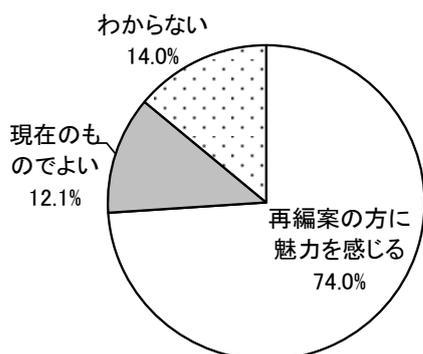
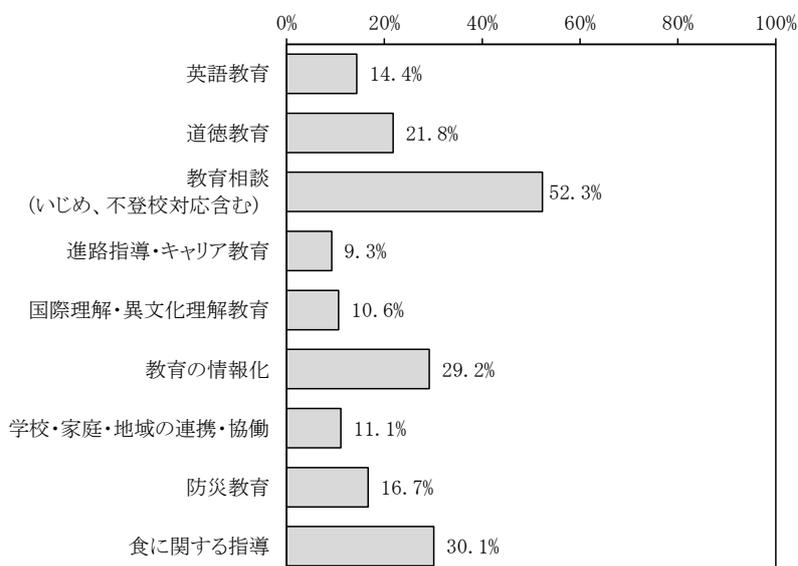


表1：必修領域再編案に対する評価
(年代・勤務校別)

		再編案の方に魅力を感じる	現在のものでよい	わからない
年代 (n. s.)				
30代	(89)	75.3%	11.2%	13.5%
40代	(60)	80.0%	13.3%	6.7%
50代	(64)	67.2%	10.9%	21.9%
勤務校 (n. s.)				
幼稚園	(46)	78.3%	15.2%	6.5%
小学校	(90)	73.3%	13.3%	13.3%
中学校	(57)	68.4%	10.5%	21.1%
全体	(215)	74.0%	12.1%	14.0%

b. 選択制導入時に優先して受講したい項目（設問 7）

図2：必修領域の選択制導入に伴う優先項目 (N=216、2項目回答)

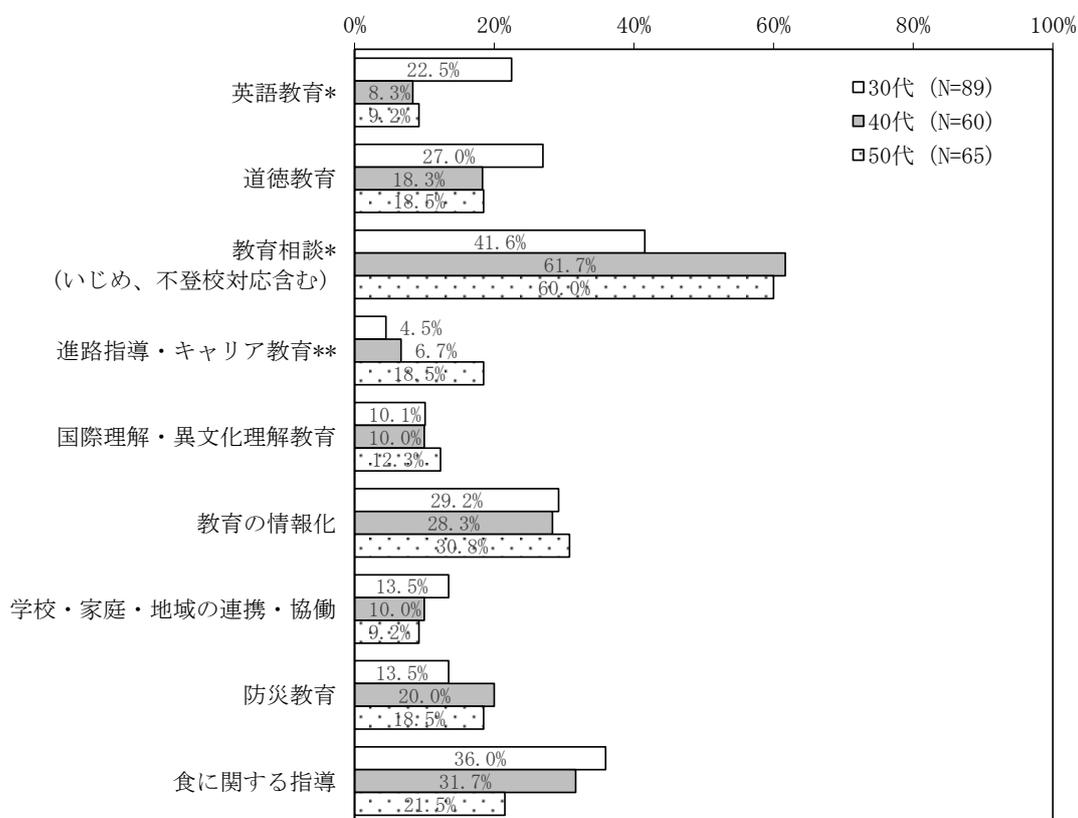


では、選択制の導入に際して、9つの項目のうち、どの内容を優先したいと考えているのだろうか。設問7では、「新たな内容を組み入れるとするならば、優先して受講したい項目を以下よりふたつ選び、番号に○をしてください」とたずねている。回答を単純集計したものが、図2である。なお、2項目選択の回答形式であるため、合計が100%を超えている。

最も多かったのは「教育相談」で、52.3%と約半数を占めている。順に、「食に関する指導」30.1%、「教育の情報化」29.2%、「道德教育」21.8%と多くなっている。一方、選択した者が少なかったのは、「進路指導・キャリア教育」9.3%、「国際理解・異文化理解教育」10.6%で1割程度であった。

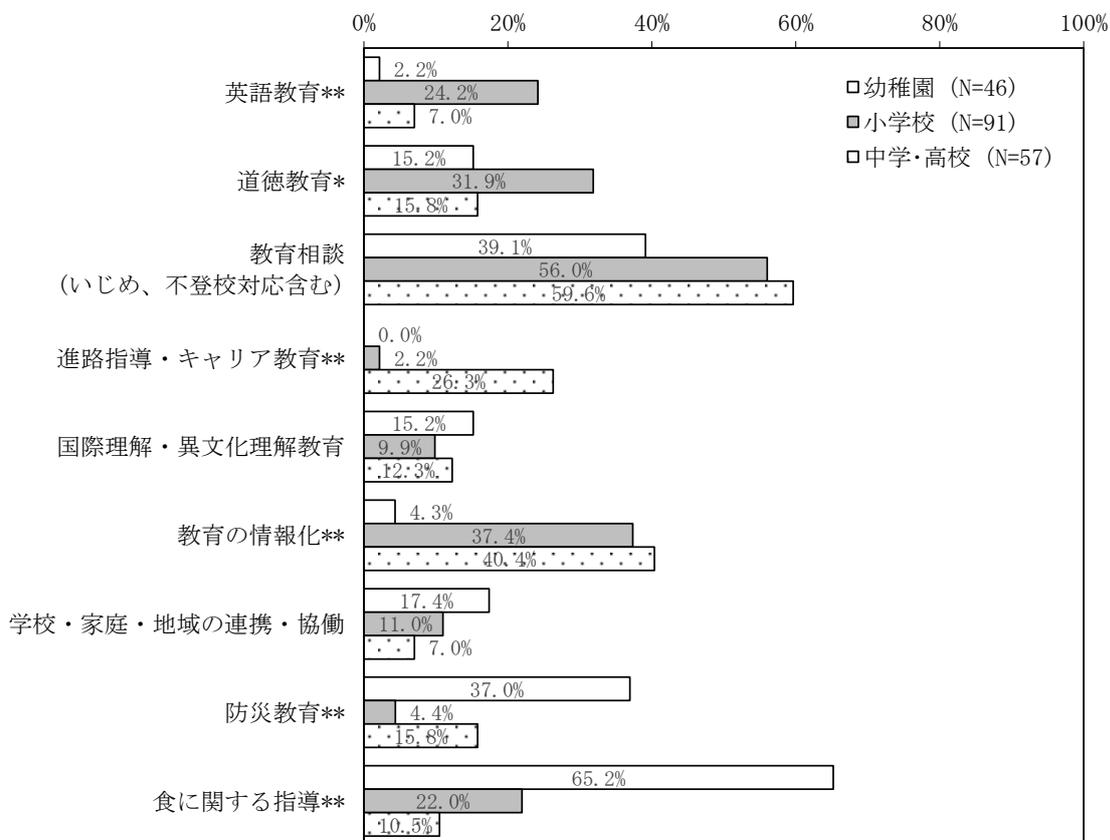
さて、以上の回答傾向は、年代別、勤務校に違いがみられるのであろうか。図3では年代別、図4では勤務校別に集計し、項目ごとに有意差が生じているかを確認した。まず、図3の年代であるが、有意差のある項目として、「英語教育」が挙げられる。このうち、30代が22.5%と突出しており、若い世代にこの内容へのニーズが高いと考えられる。「教育相談」では、30代の41.6%に対し、40・50代では約6割と、年配層の関心が強い。また、「進路指導・キャリア教育」では、50代（18.5%）の値が高くなっている。ベテランの教員が校務分掌等でこの領域を担当しているため、こうした結果になった可能性がある。他の項目では有意差が生じなかった。

図3：必修領域の選択制導入に伴う優先項目（年代別、2項目回答）



*: $p < .05$, **: $p < .01$

図4：必修領域の選択制導入に伴う優先項目（勤務校別、2項目回答）



*: $p < .05$, **: $p < .01$

次に、図4の勤務校であるが、多くの項目で有意差がみられた。まず、「英語教育」では小学校が24.2%と突出して高い。小学校における英語教科化の議論が、意識の高まる一因になった可能性がある。また、「道徳教育」も小学校の比率が31.9%と高い。「進路指導・キャリア教育」になると、中学・高校が26.3%と高い割合を示しているが、学校段階の性格上、当然といえるだろう。一方、幼稚園教員の関心が高いのは、「食に関する指導」(65.2%)、「防災教育」(37.0%)であり、幼児教育の現代的な課題として広く認知されている内容といえる。それに対し、「教育の情報化」については、他の学校種が約4割を示したなか、わずか4.3%と極端に低かった。

c. 項目を選んだ理由（設問8）

さて、設問8では、「設問7でその内容を選んだ理由」について、自由記述にて回答を求めている。項目ごとに、比較的回答が多かった年代、勤務校種に着目して、その内容を概観しよう。

英語教育

英語教育を選択したのは全体の14.4%であり、図3、4でみたとおり、主に30代、そし

て小学校に勤務している教員が多かった。彼らの回答を確認しておきたい。

これからのグローバル化社会に向けて本当の意味での使える英語を習得するための学習方法を学びたい。(30代、男性、小学校勤務)

活動から教科に変わっていくだろうし、これからの子どもたちには絶対に必要になってくるものだと思うのでしっかり学びたい。(30代、男性、小学校勤務)

ネイティブが導入できない場合の英語教育の指導の仕方について興味があるので。(30代、女性、小学校勤務)

地方自治体レベルでは、なかなか納得のできる先の見える英語教育はお目にかかれな
いから。(30代、女性、小学校勤務)

以上のように、小学校における英語の教科化に伴って準備が求められるため、あるいは、
グローバル化によって英語教育の需要が高まるため、といった回答が目立っている。

道徳教育

「道徳教育」については、小学校の教員が選択する割合が高かった(31.9%)。彼らの主
な回答は以下のとおりである。

これから教科となるので、今までとどのように指導方法を変えなければならないのか、
具体的に知りたいから。(30代、男性、小学校勤務)

道徳の教科化も言われ道徳についてもっと専門性を高めた方がいいと思うため。

(30代、女性、小学校勤務)

大切だ、と言われるわりにまだマイナーな感じがし、やり方も画一的だから。(私の勤
めている区は特にこうあるべき!というのが強い)(30代、女性、小学校勤務)

道徳の教科化がすすめられるが、現時点で体系だって指導できていないため。また、
いじめ等の発生などを考えても大切な教科だと思うので。(50代、女性、小学校勤務)

このように、道徳教科化の議論が進むなかで授業の方法論を学習したいから、体系的な
授業法が必ずしも確立できていないから、といった意見が広くみられた。

教育相談

「教育相談」を選択した者は52.3%と、最も多かった項目である。そのうち、40、50代では約6割と、とくに顕著であった。その年代の回答に着目し、理由をみていこう。

園で教育相談が複雑になっているのでその対処法を知りたい。

(40代、女性、幼稚園勤務)

家庭環境や近年の子どもの悩みなど刻々と変化していく中で対応も変化していかなければならないと感じたため。(40代、女性、幼稚園勤務)

いじめ、不登校はずっと考えていかなければならず、効果的な相談方法を知りたい。

(40代、女性、小学校勤務)

教育相談はどの学年、クラスをもっても、そこにかかる児童がいること、また日々新しい研究が進むこと、以上の理由から学び続けていきたい。(40代、女性、小学校勤務)

対応の難しいものであり、新しい情報が必要のため。(50代、女性、小学校勤務)

いじめ、不登校の裏にある社会のひずみ、子どもが抱えた心の傷を考え少しでも良い方向にすすめるため、自分に何ができるか考えたい。(50代、女性、小学校勤務)

生徒が安心して学校に登校できるようになることが何よりも大切だと感じているから。

(40代、男性、中学校勤務)

心の問題はとてもデリケートなことなので教員が専門の先生の指導を受けていくことも必要だと思う。

(50代、女性、中学校勤務)

いじめ、不登校は「これで良い」という完全な回答がなく、できるだけ多くの事例を知り、それを参考に対応できるようにしたい。(40代、男性、中学・高校勤務)

学校現場で必ず起きる事例であり「知っている」ではなくて新しい視点で対応することが必要。

(50代、女性、高等学校勤務)

以上みてくると、いじめや不登校などは喫緊の課題として教員が直面していること、そ

これらの課題が複雑化し新しい知識や対処法が求められていることなどが、回答の背景にあるといえよう。

進路指導・キャリア教育

「進路指導・キャリア教育」は、9.3%と最も選択した者が少なかった。先述のとおり、中学校や高等学校に限定される領域であることが一因であろう。その両学校種における教員の回答を確認しておこう。

新しい情報を知らないといけないと思うため、日々勉強が必要なことだと思う。

(40代、女性、中学校勤務)

進路指導は度々かわってつかみにくい。(50代、女性、中学校勤務)

年々とくに大学の入試制度が多様化しているので、昔に比べて進路指導が難しくなってきた。

(50代、男性、高等学校勤務)

進路支援グループのメンバーであり、インターンシップを担当しているので。

(50代、女性、高等学校勤務)

以上のように、入試の多様化など変化の激しい領域であり、また、進路指導等の校務分掌を担っていることによる必要から、選択した者が多いようである。

国際理解・異文化理解教育

「国際理解・異文化理解教育」は、「進路指導・キャリア教育」と並び、全体の回答者は1割程度しかない。また、年代や勤務校によって違いがみられなかった。回答をみておきたい。

クラスに外国籍の子どもたちが増えてきて、文化の違いからトラブルもたえない。少しでも理解をしたい。(40代、女性、幼稚園勤務)

結局グローバル化に対する人材育成のための具体策がいつも先延ばしになっている気がする。どのような考えのもと、今はこうなっているなど日本の国際化に対する考えなど勉強したい。(40代、女性、小学校勤務)

あまり異文化に詳しくなく、学校でも色々な地域から子どもが学びに来ているので。
(50代、女性、小学校勤務)

ここのところ外国籍の子の受け入れも多くなっている。 (50代、女性、中学校勤務)

上記のように、勤務校における日本語を母語としない子どもの増加、グローバル化に対する理解の必要性が、回答の背景にあったと思われる。

教育の情報化

「教育の情報化」の選択率は29.2%と、全体の3番目であり、比較的関心の高い領域である。とりわけ、小学校と中学・高校では約4割を占めていた。彼らの回答を抽出しておこう。

ICTを苦手とする教員が多いから。新しい技術によりどんどん機器が進化していくから。
(30代、男性、小学校勤務)

残念だが現在のICT教育は画一的な授業になりがちで魅力を感じないから。よりよい形のICT教育が展開されようとしているのか興味がある。(30代、男性、小学校勤務)

急速にICTが周囲に広まり、学校での活用を推進する必要があるから。また情報モラルについては小学校高学年では必須であると考え。(40代、女性、小学校勤務)

今後ICT化がさらに進むし、個人的にデジタルに弱いので。(40代、女性、中学校勤務)

スマートフォン、タブレット端末等を所持している児童・生徒が急激に増加したため。
(30代、男性、高等学校勤務)

このように、自らが情報化に疎いこと、技術革新が進むなかで今後とりわけ利用が促進される分野であること、情報機器を所持する子どもの増加に伴い情報モラル教育の重要性が増すことなどが、主な理由として挙げられていた。

学校・家庭・地域の連携・協働

「学校・家庭・地域の連携・協働」を挙げたのは11.1%で、決して多くはない。年代や勤務校で差もみられなかった。主な回答は以下のとおりである。

家庭との連携は子どもを教育していく上で(幼稚園のため)切りはなせないものなの

で。(40代、女性、幼稚園勤務)

社会の情勢により、よりよい連携の形が変わりそうだから。また、学生の立場では考えにくい内容だと思うから。(30代、男性、小学校勤務)

教員個として対応するには限界があり、連携するための方法論を学ぶ必要があるから。(50代、女性、小学校勤務)

地元の学区について理解を深めたいから。(40代、女性、中学・高校勤務)

以上のように、連携の必要性が増したこと、家庭や地域理解に努めたいことなどが、主な理由といえるだろう。

防災教育

「防災教育」を選択した者は全体の16.7%である。年代ごとに差はみられないが、勤務校種では幼稚園が37.0%と、このなかでは際だって高かった。主な回答は以下のとおりである。

東日本大震災以後、多くの研修を受けてきたが、まだまだ足りないと感じるため。
(40代、女性、幼稚園勤務)

東日本大震災の時、多くの保護者が幼稚園は安全だと思っていたので、おむかえが最後になったという記事を読んで信頼度の高さに驚き、それにきちんと答えたいと思ったので勉強したいと思った。(40代、女性、幼稚園勤務)

幼児が災害から避難することの限界を感じるのでヒントを得たい。
(50代、女性、幼稚園勤務)

子ども個での防災意識を年齢が低い中でどう高めていくか知りたい。
(50代、女性、幼稚園勤務)

回答の背景として、幼い幼稚園児における防災意識向上の困難とその対策や、東日本大震災以降の防災教育の高まりがうかがえよう。

食に関する指導

「食に関する指導」に対しては30.1%と、「教育相談」に次いで高い値を示した。とくに、

幼稚園教員に限っては 65.2%と、全項目のなかで最も多かった。その主な回答は次のとおりである。

多様化するアレルギーに対し、どのような指導をしたらいいか学びたいため。

(30代、女性、幼稚園勤務)

偏食の子が多く、どのように援助すればよいか知りたい。(30代、女性、幼稚園勤務)

アレルギーを持つ子どもが増え、食物を扱う際に注意することが多くなったため。好き嫌いが多い子が多いので具体的な改善案などを知りたいため。

(30代、女性、幼稚園勤務)

アレルギーがある子どもが増えているため、又、食に対する興味が減っている子どもが多いため、どの様に改善するのか知りたい。(40代、女性、幼稚園勤務)

自由回答からうかがえる理由として、アレルギーをもつ子どもが増加しその対応策を学習したいこと、また、偏食や好き嫌いの多い子どもに対して、食の重要性を理解させる手段を得たい、といった2点に大きくまとめられよう。

4. 新たな必修領域・選択必修領域の構成のために

教員免許状更新講習の必修領域において、優先度の高い項目と優先度の低いそれを検証することにより、更新講習における受講者のニーズについて検証してきた。分析結果からまずいえることは、教員は更新講習に対し、自らの職務内容に直結する内容、現場での指導に直ちに生かせる内容に期待している傾向があったことである。とりわけ目立ったのは、約半数の受講者が高い優先度を示した「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」であった。回答者の多くは、特別な支援を要する子どもへの対応に課題をもっており、講習から効果的な指導方法や対応策を把握したいと考えていた。他に比較的優先度の高かった「4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題」、「1. 学校を巡る近年の状況変化」についても、職務の過程で子ども、家庭、学校の変化に戸惑いや課題を抱いているため、正確な状況を把握し、その対処法を知りたいという期待が背景にあると推測された。

更新講習で教員が期待するもう一つの要素は、学術的・専門的内容であると考えられた。「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」では、専門的な立場からの知見を得たいという欲求が広くみとれた。逆にいえば、「5. 学習指導要領の改訂の動向等」、「8. 学校における危機管理上の課題」は、自治体や校内の研修会でもよく取りあげられる内容であるため、わざわざ大学の更新講習で取りあげることにに対して、疑義

が呈されていた。

これに対し、教員の日常的な実践に直結しないと思われる内容については、講習内容として重きをおかない傾向があった。とくに、「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」、「5. 学習指導要領の改訂の動向等」など、現場からは乖離していると思われる法制度の領域に対しては優先度が低かった。また、「7. 様々な問題に対する組織的対応の必要性」に対しては、管理職が検討すべき課題であり、一般の教員からすれば自らの教育活動から離れた領域とみなしていた。

以上から、更新講習受講者のニーズを大きくまとめると、端的に次の2点に集約されよう。1つは、すでに指摘があるように（笠井 2009、山本 2009、佐藤 2010）、講習を受けてすぐに課題解決に役立つような実践的内容を求めていることである。もう1つは、大学で受講するという点から、学術的、専門的な知見を得たいと考えていることである。こうした欲求をいかにくみ取り、講習内容に組み込むかが、実施主体にとっては講習の成否を左右するポイントとなろう。

山本（2009, p. 111）が示唆するように、講習内容については、すでに自治体や各学校で実施されている研修との棲み分けに配慮することが求められる。実際、更新講習の内容における研修との重複は、受講者たちから厳しい評価をうける一因となっていた。更新講習と研修との整合性という点は、今後も大きな課題となろう。その際、留意すべきなのは、自治体で実施される研修と、大学での更新講習とは、その意味づけにおいて、異なる部分が多いという点である。例えば、「大学での講習の意義は、実践から一步離れて、理論・学問的、悲観的、歴史・長期的、総合・学際的な視点で、自らの現場経験を見つめ直すところにある」（佐藤 2010, pp. 69-70）とされる。ただでさえ、教員たちには、更新講習の内容は研修でも十分まかなうことができるという意見がみられることから（大谷ほか 2009、善明 2011 など）、改めて各自自治体の研修と大学での更新講習との違いを問い直し、両者間の関係性・整合性を明確にして、それを教員に十分に認知させる必要がある。もちろん、講習を提供する大学側も、教員が日頃受講している研修の内容に目配りしつつ、大学で行う講習の意義をふまえた上で、受講者である教員のニーズに応えるように努める必要があるだろう。

選択必修領域の導入については、約4分の3の受講者が望ましいと考えていた。そして、提示された内容のなかで、受講者が優先的に受講したいと考える項目として、「教育相談（いじめ、不登校対応含む）」が半数を占めた。次に、「教育の情報化」、「食に関する指導」がそれぞれ約3割程度となっていた。そして、優先したい受講内容は、受講者の勤務校によって大きく差が生じる傾向があった。幼稚園は「食に関する指導」と「防災教育」、小学校は「英語教育」と「道徳教育」、中学・高校については「進路指導・キャリア教育」を回答する者の比率が明らかに高かった。それぞれの内容を選んだ理由として、自らが現在直面

している課題である、今後新たに指導力が求められる領域である、というような回答が一般的に目立っていた。

選択必修領域の導入案に対しては、現代的課題を取りあげており、教師の日常的な教育活動との関わりが強い内容を自らの関心に基づいて選択できる点が、おおむね良好な評価につながっているものと推測される。事実、受講者の勤務校種により回答が大きく分かれており、教員それぞれが抱く課題、関心を寄せる領域は多様であることが分かる。このように学校種別ごとに教員の要望が異なることは、免許更新制に関する他の研究でも明らかになっている（笠井ほか 2009、大谷ほか 2009）。選択必修領域の導入は、教員のもつ多様なニーズに対応するものとして期待されているといえよう。

〈参考文献〉

- 笠井孝久・土田雄一・伏見陽児・保坂亨・吉田雅巳・天笠茂，2009，「現職教員を対象とした教員免許状更新制の認識調査」『千葉大学教育実践研究』第16号，pp. 23-32.
- 大谷直史・田淵博徳・山根俊喜・小林勝年・柿内真紀，2009，「教員免許更新講習への要望に関する調査報告－鳥取県における質問紙調査をもとに－」『鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要』第5号，pp. 81-89.
- 佐藤修司，2010，「秋田大学における教員免許状更新講習の実施に関する一考察」『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』第32号，pp. 61-72.
- 山本利一，2009，「教員免許更新制における講習内容に関する調査」『埼玉大学紀要 教育学部』第58巻第2号，pp. 109-114.
- 善明宣夫，2011，「教員免許更新制の現状と課題－受講者へのアンケート調査をもとに－」『教職教育研究』第16号，pp. 1-15.

第3章 新たな必修選択領域の内容構成

—「教員免許更新講習選択必修領域の構想内容に関する需要調査」結果を中心に—

1. 調査の趣旨と内容

「教員免許更新講習選択必修領域の構想内容に関する需要調査」を実施した。調査対象は、選択領域受講者 204 名を対象として実施した。実施した選択領域の講座は次の 5 講座である。

- ・ちょっとした工夫で「夢」が広がる ICT 活用授業
- ・めざそう！ “道徳の時間の指導力アップ”
- ・小学校英語 小・中一貫英語教育の視点から
- ・通常の学級の中にいる発達障害児自身の見方、聞き方、考え方、人間関係の特徴—集団活動を通して具体的に学級全員が学ぶプログラムを考える
 - ・現代の子どもの実態をふまえた今日的な生徒指導の在り方

調査の趣旨は、研究課題の達成のため、教員免許更新講習受講者が、現行の選択領域に対してどのような評価をしているのか、これをもととして、すでにまとめられた必修領域及び選択必修領域の改善案に対してはどのような評価をするのか、を明らかにすることによって、平成 28 年度以降の教員免許更新制度の改善、特に新たな選択必修領域の在り方を明らかにしようとするものである。

調査内容は 9 の設問からなる。

- 設問 1 新必修領域 4 項目のうち第 1 順位での受講希望項目
- 設問 2 その選択理由（自由記述）
- 設問 3 新必修領域 4 項目のうち最下位での受講希望項目
- 設問 4 必修領域再編の評価
- 設問 5 今回受講した選択領域科目の教育実践上の活用目的
- 設問 6 *上記 5 科目ごとの質問票（設問 5－2～4、設問 6）
- 設問 7 新たに受講したい新選択必修領域のテーマ
- 設問 8 その選択理由（自由記述）
- 設問 9 フェースシート

2. 調査票

用いた調査票は次の通りである。

教員免許状更新講習選択必修領域の構想内容に関する需要調査

本調査は、来年度から開始予定の教員免許状更新講習「必修領域」の構想具体化を目的としています。来年度からの「必修領域」の予定されている細目は次の4項目で6時間実施になります。

1. 国の教育政策や世界の教育の動向
2. 教員としての子ども観、教育観等についての省察
3. 子ども達の発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
4. 子ども達の生活の変化を踏まえた課題

あなたが来年度受講すると仮定して、以下の設問にお答えください。

(設問1) もっとも優先して受講したいと思う細目をひとつ選び、番号に○をしてください。

回答欄：

1	2	3	4
---	---	---	---

(設問2) 設問1でもっとも優先度が高いとした理由を記してください。

回答欄：

(設問3) 逆に、もっとも優先度の低かった細目をひとつ選び、番号に○をしてください。

回答欄：

1	2	3	4
---	---	---	---

(設問4) このように必修領域が現行の8領域から4領域に絞られ、12時間中残る6時間については選択必修となることについて、あなたはどのように評価しますか。自由に記述してください。

回答欄：

(設問5) 受講している科目は来年度から選択必修領域のテーマに含まれることになります。今回受講して勤務する学校・園で活用できる内容は次のどれですか。番号に○をしてください。(複数回答可)

- 回答欄：
1. 指導に関わる基本的な知識を習得したこと
 2. 指導を充実するポイントについて理解したこと
 3. 指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと
 4. 指導事例を学び、指導計画作成が容易になること
 5. その他 () ない場合、「なし」と記入

裏面につづく

(設問7) 「必修領域」に6時間の選択制が導入される場合、予定される内容は以下の通りです。優先して受講したい項目を以下よりふたつ選び、番号に○をしてください。なお、9は必修となる予定のため、これ以外からふたつ選んでください。*この設問は必修領域で行った調査と同一設問です。

回答欄：

⑨	国の教育政策や世界の教育の動向	14	国際理解・異文化理解教育
10	英語教育	15	教育の情報化（ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等
11	道徳教育	16	学校・家庭・地域の連携・協働
12	教育相談（いじめ・不登校対応を含む）	17	防災教育・危機管理教育
13	進路指導・キャリア教育	18	食に関する指導【アレルギー対応を含む】

(設問8) 設問7で選んだ内容が選択必修領域の授業となる場合、受講して期待する成果は何ですか。

回答欄：

番号	期待する成果

(設問9) 最後に、あなた自身についてお伺いします。該当する区分に○をしてください。

回答欄：

更新目的の免許	幼免・小免・中免・高免・特支免
年 齢	30代・40代・50代
性 別	男・女
在職する学校種	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 中等教育学校・教育委員会・その他（ ）
職 名	教諭・助教諭・養護教諭・養護助教諭・常勤講師・ 非常勤講師・その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

(設問 5-2) 本講習科目を受講して、興味を持った内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 回答欄：1. iPad の教育利用。
 2. クラウドコンピューティングサービスの教育活用。
 3. 電子黒板の授業活用。
 4. その他 ()

(設問 5-3) 本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. iPad の教育利用。
 2. クラウドコンピューティングサービスの教育活用。
 3. 電子黒板の授業活用。
 4. その他 ()

(設問 5-4) 設問 3 本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. iPad の教育利用。
 2. クラウドコンピューティングサービスの教育活用。
 3. 電子黒板の授業活用。
 4. その他 ()

(設問 6) 設問 5 でお答えいただいたようなご自身の授業で活用できるヒントは、今回受講している「必修領域」「選択領域」(この授業に限らずすべてを通して)のどちらにより多く含まれますか。以下のいずれかに○をしてください。※「必修領域」をまだ未受講の方は未記入で結構です。

必修領域に多く 含まれる	選択領域に多く 含まれる	どちらとも いえない
-----------------	-----------------	---------------

道徳設問

(設問 5-2)

本講習を受講して、興味を持った内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて
2. 「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について
3. 「道徳の時間」の事例研究について
4. 「道徳の時間」の学習指導案作成演習について
5. その他 ()

(設問 5-3)

本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて
2. 「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について
3. 「道徳の時間」の事例研究について
4. 「道徳の時間」の学習指導案作成演習について
5. その他 ()

(設問 5-4)

本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて
2. 「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について
3. 「道徳の時間」の事例研究について
4. 「道徳の時間」の学習指導案作成演習について
5. その他 ()

(設問 6) 設問 5 でお答えいただいたようなご自身の授業で活用できるヒントは、今回受講している「必修領域」「選択領域」(この授業に限らずすべてを通して)のどちらにより多く含まれますか。以下のいずれかに○をしてください。※「必修領域」をまだ未受講の方は未記入で結構です。

必修領域に多く 含まれる	選択領域に多く 含まれる	どちらとも いえない
-----------------	-----------------	---------------

(設問5-2)

本講習を受講して、興味を持った内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 授業の組み立て方
2. 必然的な状況の設定
3. 絵本やチャンツの活用
4. その他 ()

(設問5-3)

本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 単元構成・授業の組み立て
2. 絵本チャンツの活用方法
3. 易しいクラスルーム・イングリッシュ
4. その他 ()

(設問5-4)

本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 小中連携の課題
2. インタラクションを取る活動・ゲーム
3. 担任の役割
4. その他 ()

(設問6) 設問5でお答えいただいたようなご自身の授業で活用できるヒントは、今回受講している「必修領域」「選択領域」(この授業に限らずすべてを通して)のどちらにより多く含まれますか。以下のいずれかに○をしてください。※「必修領域」をまだ未受講の方は未記入で結構です。

必修領域に多く 含まれる	選択領域に多く 含まれる	どちらとも いえない
-----------------	-----------------	---------------

特別支援設問

(設問 5-2) 本講習を受講して、興味を持った内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 認知発達 (視覚、聴覚)
2. 運動発達 (身体図式)
3. 適応行動 (ソーシャルスキル)
4. その他 ()

(設問 5-3) 本講習を受講して、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 認知発達 (視覚、聴覚)
2. 運動発達 (身体図式)
3. 適応行動 (ソーシャルスキル)
4. その他 ()

(設問 5-4) 本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 認知発達 (視覚、聴覚)
2. 運動発達 (身体図式)
3. 適応行動 (ソーシャルスキル)
4. その他 ()

(設問 6) 設問 5 でお答えいただいたようなご自身の授業で活用できるヒントは、今回受講している「必修領域」「選択領域」(この授業に限らずすべてを通して)のどちらにより多く含まれますか。以下のいずれかに○をしてください。※「必修領域」をまだ未受講の方は未記入で結構です。

必修領域に多く 含まれる	選択領域に多く 含まれる	どちらとも いえない
-----------------	-----------------	---------------

生徒指導設問

(設問5-2) 本講習を受講して、興味を持った内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 現代の子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう
2. いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方
3. 今日求められる生徒指導や教育相談のあり方
4. その他 ()

(設問5-3) 本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 現代の子ども・若者の成長上の課題をふまえた児童生徒理解
2. いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方
3. 教育相談や危機管理の考え方や実践演習
4. その他 ()

(設問5-4)

本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

1. 現代の子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう
2. いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方
3. 教育相談や危機管理の考え方や実践演習
4. その他 ()

(設問6) 設問5でお答えいただいたようなご自身の授業で活用できるヒントは、今回受講している「必修領域」「選択領域」(この授業に限らずすべてを通して)のどちらにより多く含まれますか。以下のいずれかに○をしてください。※「必修領域」をまだ未受講の方は未記入で結構です。

必修領域に多く 含まれる	選択領域に多く 含まれる	どちらとも いえない
-----------------	-----------------	---------------

3. 分析

1) 「教員免許更新講習選択必修領域の構想内容に関する需要調査」の方法

調査した講座と受講者の基本的属性

調査対象者は、平成 26 年 8 月に玉川大学で催された免許状更新講習選択領域「ちょっとした工夫で『夢』が広がる ICT 活用授業」(以下「ICT」)

「小学校英語—小・中一貫英語教育の視点から—」(以下「小学校英語」)

「— めざそう! “道徳の時間の指導力アップ” —」(以下「道徳」)

「現代の子どもの実態をふまえた今日的な生徒指導の在り方」(以下「生徒指導」)

「通常の学級の中にいる発達障害児自身の見方、聞き方、考え方、人間関係の特徴—集団活動を通して具体的に学級全員が学ぶプログラムを考える—」(以下「特別支援」)

の全参加者である。204 名の回答を得ることができた。内訳は、「ICT」35 名、「小学校英語」50 名、「道徳」20 名、「生徒指導」19 名、「特別支援」80 名である。

調査対象者の属性は、表 1 の通りである。更新目的の免許種の半数以上 (52.0%) が小学校免許である。次いで、中学校免許 (23.5%)、高等学校免許 (8.8%) であった。年齢では、30 代が最も多く (42.2%)、40 代 (26.5%)、50 代 (28.9%) であった。性別は男性の 34.8% に対して、女性が 62.7% であった。職名は、教諭 (82.4%) が多かった。

表 1: 調査対象者の基本的属性

(更新目的の免許)		
幼免	5	2.5%
小免	106	52.0%
中免	48	23.5%
高免	18	8.8%
特支免	5	2.5%
その他	13	6.4%
	195	
(年齢)		
30代	86	42.2%
40代	54	26.5%
50代	59	28.9%
	199	
(性別)		
男	71	34.8%
女	128	62.7%
	199	
(職名)		
教諭	168	82.4%
助教諭	1	0.5%
養護教諭	0	0.0%
養護助教諭	0	0.0%
常勤講師	5	2.5%
非常勤講師	13	6.4%
その他	10	4.9%
	197	

2) 新たな必修領域に対する受講者の優先度とその理由 (設問 1-3)

新たな必修領域とは、全受講者が共通受講するにふさわしい内容で構成される。具体的には、以下の 4 つが予定されている。

- 国の教育政策や世界の教育の動向
- 教員としての子ども観、教育観等についての省察
- 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見 (特別支援教育に関するものを含む。)

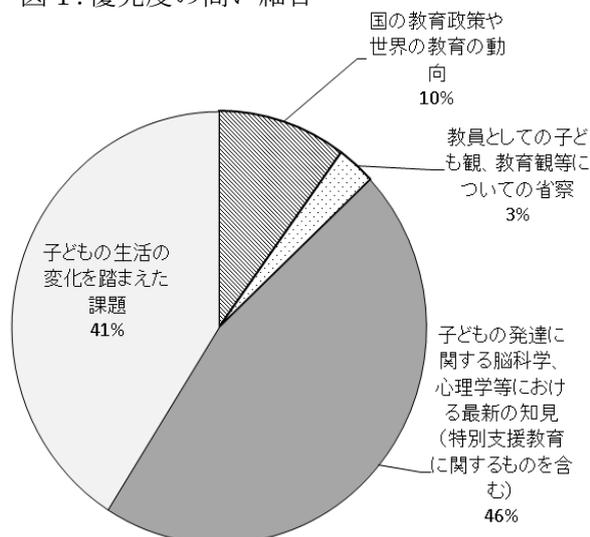
●子どもの生活の変化を踏まえた課題

設問1－3では、この予定されている必修領域の内容に対して、受講者がどの内容をより優先したいとしているか、また逆にどの内容を優先していないのかを尋ねている。

a. 優先度のもっとも高い細目（設問1）

設問1では、上述の4つについて、「もっとも優先して受講したいと思う細目をひとつ選び、番号に○をしてください」と択一式でたずねている。その結果を集計したのが図1である。「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む）」（45.6%）および「子どもの生活の変化を踏まえた

図1: 優先度の高い細目



課題」（40.7%）が大部分を占めた。この2つの細目が大部分を占めるのは、「特別支援」を含めたからであろうか。そうではないことが、「特別支援」の受講者80名を除いた集計結果も同様の傾向である。この場合、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む）」（40.0%）および「子どもの生活の変化を踏まえた課題」（44.0%）となり、やはりこの2つの細目が大部分を占める。

b. 自由記述にみる優先度の高い理由（設問2）

設問2では、「設問1でもっとも優先度が高いとした理由を記してください」と自由記述欄を設けている。ここから、優先度が高い細目を選んだ理由について概観したい。「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）」および「子どもの生活の変化を踏まえた課題」が優先度の高い細目であった。この2つについて、回答の傾向を整理する。

○「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）」の選択理由

①特別支援を必要とする生徒が増えているから

回答の多くは特別支援を必要としている生徒が増えたことを実感している。実際、次の

ような回答がみられた。

ほとんどのクラスに特別支援学級在籍の児童がいるので。

(男性、40代、小学校勤務 (小学校英語 7))

ADHDと思われる子どもが増えてきているから。

(女性、30代、小学校勤務 (生活指導 16))

最近、特別支援を必要とするお子さんが増えています。色々な視点から学びたいと思
い選択しました。(女性、30代、中学校勤務 (道徳 8))

発達障害や課題を抱えた子どもが増加しているから。

(女性、30代、中学校勤務 (特別支援 29))

特別支援を必要と思われる子が増えてきているように感じるから。

(男性、30代 (ICT 9))

②脳科学、心理学等における最新の知見を知りたいから

学問的な知見への期待を込めた回答が多く見られた。実際、次のような回答がみられた。

心理学的に現在の子供、青年の心理学は自分が学生だった頃の心理学と何が変化したかを
知っておきたい。(男性、40代、中学校勤務 (ICT 31))

脳科学や心理学における最新の知見は日々進化していくと思うから。

(女性、30代、小学校勤務 (特別支援 8))

日々の指導に科学的な知見を活かしたい。(女性、40代、小学校勤務 (特別支援 24))

学問は常に新しく進んでいると思うので、その時の最新を学ぶ必要があると思うから。

(女性、40代、小学校勤務 (特別支援 72))

○「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の選択理由

①現場に身近な課題であるから

他に比べて、現場ですぐに役立つ細目と捉えた回答が多かった。実際、次のような回答
がみられた。

日々の指導に直結し最も悩むところだから。(女性、40代、小学校勤務 (道徳 10))

最も現場に近い知識が得られそうだから。(男性、40代、高等学校勤務 (ICT 11))

現場で役立つそうだから。(男性、30代、小学校勤務 (小学校英語 38))

②生徒を取り巻く環境の速い変化を捉えたいから

生徒を取り巻く環境の変化の速さを実感している回答が多い。実際、次のような回答が見られた。

子どもをとりまく環境が変化することで、教員、学校が対応する課題も変化すると思うのでいつも最新の状況やその対応について知りたいと思うので。

(女性、30代 (ICT 35))

子どもをとりまく環境は常に変化し続けている。講習の中で現状を再認識することが重要だと思う、特にいじめの問題は深刻である。

(女性、40代、教育委員会勤務 (小学校英語 49))

様々な電子機器が発展し便利な世の中になっているという利点もあるが、その利点を自分たちの都合のいいように使うことで生徒間でのトラブルも近年多発しているから。

(女性、30代、高等学校勤務 (小学校英語 27))

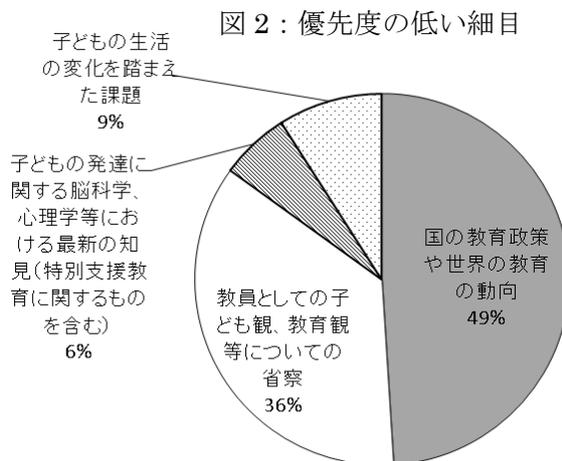
ここ数年の間でも子どもの質が変わっているのが感じられます。時代の変化で変わるのとはわかってはいるつもりですが、その本質を知って現場で生かしたいです。

(女性、30代、小学校勤務 (道徳 15))

子どもの生活の変化に驚かされることがよくありますが、まだまだ知らないことがたくさんあるのではないかと思うので。(男性、40代、小学校勤務 (特別支援 47))

c. 優先度のもっとも低い細目 (設問3)

設問3では、「もっとも優先度の低かった細目をひとつ選び、番号に○をしてください」と択一式でたずねている。その結果を集計したのが、図2あである。「国の教育政策や世界の教育の動向」(48.5%)および「教員としての子ども観、教育観等についての省察」(35.8%)が大多数を占めている。



3) 必修領域再編の評価（設問 4）

現在の「必修領域」で設定されているのは、次の 8 つの細目である。

1. 学校を巡る近年の状況の変化
2. 教員としての子ども観、教育観等についての省察
3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題
5. 学習指導要領の改訂の動向等
6. 法令改正及び国の審議会の状況等
7. 様々な問題に対する組織的対応の必要性
8. 学校における危機管理上の課題

この 8 つの細目を 12 時間以上の時間で開設されることとされている。ところが、「教員免許更新制度の改善について(報告)」(平成 26 年 3 月 18 日教員免許更新制度の改善に係る検討会議)に示されているように、「必修領域」の見直しが検討されている。そこでは、上記 8 つの領域を以下の 4 領域

- 国の教育政策や世界の教育の動向
- 教員としての子ども観、教育観等についての省察
- 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
- 子どもの生活の変化を踏まえた課題

に絞り、時間も 6 時間に減らすよう提言している。そして、残りの 6 時間は新たに開設する「選択必修領域」を設けることが適当としている。

本設問では、この提言への評価を問うている。

設問4では、「必修領域が現行の8領域から4領域に絞られ、12時間中残る6時間については選択必修となることについて、あなたはどうか評価しますか」と自由記述欄を設けている。肯定的な評価と読み取れる人は124人(61%)であった。ただし、回答の中には記述の全くないものが26人あった。この肯定的か否定的かわからない空欄の回答を除くと実に70%の人が必修領域を絞ることに肯定的な評価をしている。実際、次のような回答が見られた。

選択の幅が広がることは良い。(女性、40代、中学校および高等学校勤務(生活指導2))

自分の課題や興味に合わせて受講できてよいと思う。(女性、30代、中学校勤務(道徳1))

自分が学びたい領域を選択することで、より有意義な研修になると思う。

(男性、30代、小学校勤務(小学校英語6))

今後に生かす研修的な意味からすると現実的であり、よいと思う。

(男性、50代、小学校勤務(特別支援35))

より自分が学びたいと思う内容のほうが講習への意欲も出てくるし、また各学校の状況に合わせた講習を受けられるので良いと思う。(女性、30代(ICT35))

逆に、否定的な評価にも耳を傾けるべきであろう。否定的な意見には、なぜ必修領域を絞らなければいけないのか、その理由が分からないとの意見がある。実際、次のような回答が見られた。

どのような理由でそうなったのかを知りたいと思った。特に問題と思わない。

(女性、50代、小学校勤務(道徳17))

現行の方法から変更にする必要性がよくわからないです。(女性、50代、中学校勤務

(特別支援19))

なぜ変更になるのか納得する説明を聞いていない。もっと現場にきちんと説明すべきだし意見を聞いてほしい。(男性、40代、中学校勤務(小学校英語8))

また、どの細目も大切なことであるから、必修にして学ぶべきであるとの意見があった。実際、次のような回答が見られた。

必修は現行のとおりで良い。好きなことばかりでなく、確実に必要なことはきちんと学

ぶ機会を持ちたい。(女性、小学校勤務(小学校英語 32))

どれも必要かと思うので、やはり必修の方がいいのではないかと思う。

(女性、40代、小学校勤務(特別支援 20))

4) 今回受講した選択領域科目の教育実践上の活用目的(設問5)

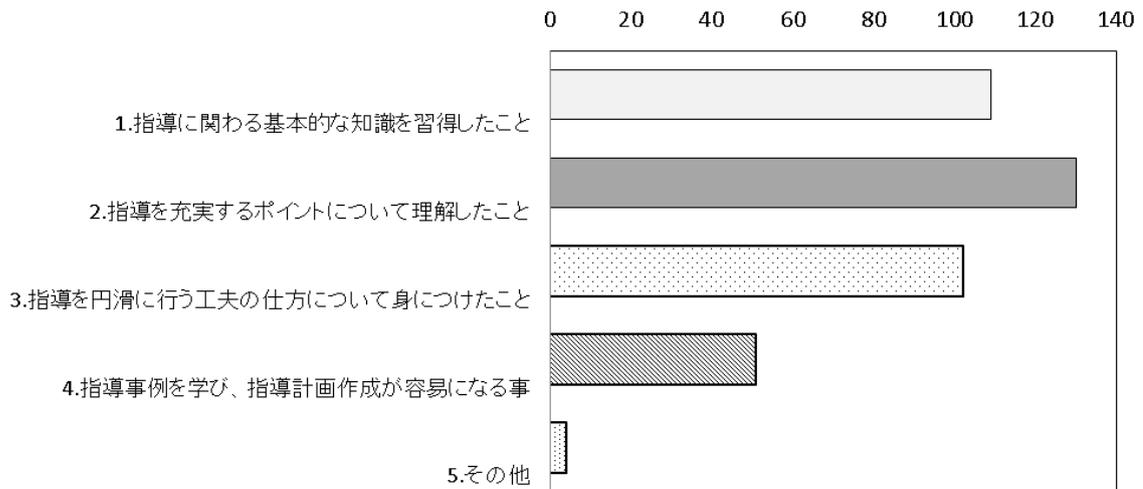
「教員免許更新制度の改善について(報告)」(平成26年3月18日教員免許更新制度の改善に係る検討会議)によれば、「選択必修領域」は、以下の内容が提案されている。

1. 学校を巡る近年の状況の変化
2. 学習指導要領の改訂の動向等
3. 法令改正及び国の審議会の状況等
4. 様々な問題に対する組織的対応の必要性
5. 学校における危機管理上の課題
6. 教育相談(いじめ・不登校への対応に関するものを含む。)
7. 進路指導・キャリア教育
8. 学校・家庭・地域の連携・協働
9. 道徳教育
10. 英語教育
11. 国際理解・異文化理解教育
12. 教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育[情報モラルを含む]等)

また、「選択必修領域」をこれらに限定するわけではなく、環境教育や教員のメンタルヘルスなど、その時々々の社会の要請等を踏まえ、適宜適切に内容を選択していくことが重要であると指摘されている。「必修領域」とされる内容でも、さらに「選択必修領域」で掘り下げて扱うテーマも必要であろう。

調査票の設問5では、「受講している科目は来年度から選択必修領域のテーマに含まれることとなります。今回受講して勤務する学校・園で活用できる内容は次のどれですか。番号に○をしてください」と多肢選択式でたずねている。その結果、「指導を充実するポイントについて理解したこと」が一番多く、次に「指導に関わる基本的な知識を習得したこと」および「指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと」がそれに続いた。「指導事例を学び、指導計画作成が容易になる事」が他の選択肢に比べて少ない回答となった。

学校・園で活用できる内容



おわりに

よりよい免許更新講習のために、本調査の結果をどう活かせばよいか。まずは、玉川学園創立者の言葉を引用したい。

「義務教育も、一般に教育思想の普及しなかつた昔は止むを得なかつたとしても、世の進むにつれ、『義務』などと人に強いられることでなくて、親も、子に対する子孝行として自発的に子を学校に送るなり、学校の費用を進んで出すなり、子自身も人間完成の自己完成の義務として、笈を負うて慕う師の許に集まるという風の昔に還りたいものです。今の世の中に、中江藤樹先生や広瀬淡窓先生、松陰先生や南洲翁の如き偉大な教育家や家塾はないとしても、しかも世間の学生がお師匠様を選ぶでなくて、ただ就職問題が第一義であるようでは全く情けないことと思います。」(198 ページ, [1])

世間の学生がお師匠様を選ぶように、現場の先生方に玉川大学の免許更新講習を選んでいただくため何ができるであろうか。外部有識者による委員の意見を踏まえて2点述べたい。

一つめは、現場が必要とする「最新の知見」をさらに深めることであろう。例えば、第4節にもあるように、特別支援の必要な生徒の増加や、虐待、DV、ネットトラブルといった子どもの生活の大きな変化が見られる。これらの動向に対して、どう「新しい知見」を大学が提供できるか。学問的な見地からだけでなく、例えば東京都の「特別支援教室」といった新しい制度も踏まえたものでありたい([3])。

二つめは、授業の改善であろう。大学教員の提供する授業が、難しいことを分かりやすく、しかも深い学びにつながるものでありたい。「最新の知見」が深い学びを体験できる方法で伝えられるとき、多くの現場の先生方に足を運んでいただける免許更新講習となるのではないだろうか。

【参考文献】

[1]小原國芳（1963）『小原國芳全集 秋吉台の聖者本間先生 玉川塾の教育』玉川大学出版部

[2]島田四郎・倉岡正雄・土山牧民・米山弘・小原芳明・石橋哲成（1989）『全人教育通論 III・IV』玉川大学

[3]「東京都特別支援教育推進計画 第三次実施計画について」

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KEIKAKU/2010/11/70kbb100.htm>（参照 2015 年 3 月 6 日）

【謝辞】

玉川学園教育企画部教育企画課には、関連する参考文献を選定する際にお世話になりました。ありがとうございました。

第4章 選択必修領域のテーマと講習の在り方

— 「教員免許更新講習選択必修領域の構想内容に関する需要調査」結果（続）を中心に—

新たな選択必修領域が設定された場合、予定される内容から履修したい項目を選択し（設問7）、受講して期待する成果を自由記述で回答を得た。さらに回答者は、先に示した選択領域の5講座（「だれでもできるICT活用授業（以下ICTと略す）」、「これからの道德教育（道德）」、「外国語教育活動・小学校英語・小・中英語教育の視点から（英語）」、「生徒指導上の諸問題への対応（生徒指導）」・「特別支援教育を考える（特別支援）」）のいずれかを受講しており、設問5として、選択した講座の内容に即して、受講して教育実践に活用したい内容、さらに学びたい内容に関して自由記述をしてもらった。その自由記述内容から重要なキーワードを抽出し、KJ法を用いてカテゴリごとに集約した回答件数および回答率の分析を行いながら（図1-10）、

1. ICT
2. 道德教育
3. 小学校英語
4. 生徒指導
5. 特別支援教育

について、今回の講座担当者の調査結果分析（設問5-2以下と設問6）と合わせて、選択必修領域の講習の在り方を検討することにした。

なお、各項目に対する回答は2項目まで回答ができるが未記入もあり、有効な回答数は一定ではなく偏りがみられた。特に「生徒指導」（92件）についての回答件数と「英語」（52件）および「道德」（57件）を比較すると回答件数に大きな差がみられる結果であった。

集計結果を踏まえ、5領域それぞれの回答率（%）を概観すると、回答率の高い項目順に3位までに占める割合は60%を超えている点が共通しており、それ以下は極めて少数派意見であることが判明した。

そのためここでは、各領域において回答率の高い項目の3位までを主に着目し考察を進めることにする。しかし、4位以下の少数派の意見を無視するものではなく、それらの回答も尊重しながら考察することにする。

1. ICT

最も期待する成果としては、「ICTの活用法の習得」であり回答率の41.1%であり、次の「教員自身のスキルアップ」は14.3%、「学校現場への導入が促進されること」は13.0%であることから、その差は顕著であり「ICTの活用法の習得」が最も期待されていることがわかる。4位の「授業・現場への即時の活用」を併せれば過半数になることから、実際に教育機器を用いた活用法とその指導法に対するニーズの高さが伺える。

ICT活用授業についての考察を進めるにあたり、その根幹にあたる日本の「情報教育」の変遷に触れる必要がある。なぜなら、今回の調査対象者の年齢の内訳（30代：55.0%、40代：5.0%、50代：40.0%）と深く関連があると考えられるからである。

昭和40年代に情報教育の萌芽として「専門教育としての情報教育」が開始され、昭和60年前後から平成元年学習指導要領改訂に伴い、「情報教育の普通教育」への進展が謳われ、中学校の「技術・家庭」に選択領域として「情報基礎」が新設されたのである。また、社会、公民、数学等に、情報に関する内容が取り入れられ、各教科の指導においても、教育機器を活用することになったのである。

平成3年7月に「情報教育の手引き」が作成され、その後、平成8年前後から平成10年度学習指導要領改訂で普通教育における情報教育の体系化が始まり、中学校の教科「技術・家庭」における「情報とコンピュータ」が必修化され、高等学校の普通科における教科「情報」が新設され必修化されたのである。

*出典：文部科学省「情報教育」の内容の充実について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/027/shiryo/05012101/003.htm

以上を踏まえ、情報教育の普通教育への進展が謳われ、中学校の「技術・家庭」に選択領域として「情報基礎」が新設された平成元年学習指導要領改訂時には、本調査対象者である40代・50代は自身が学生時代には「情報教育」に触れる機会がほとんどなかったと考えられる。特に50代では、既に成人し教壇に立っている可能性が高いと推測できる。30代の対象者は、中学生時代に教科「技術・家庭」における「情報とコンピュータ」が必修化され、高等学校の普通科でも教科「情報」を受講してきた年代である。

そうすると、特に40代・50代の教員にとっては、授業で「情報やコンピュータ」について受講した経験がないため、自身のICTに関するスキルアップやその活用法をと指導法の習得について切望するのは自明の理である。ましてや、実際に教えている児童・生徒（現代の子ども達）は、生まれた時から既にICT活用が盛んに取り組みされており、ICTに関しては教員のスキルよりも高度である可能性も十分に予想されるのが現状である。

そうした背景からも、ICT活用法や指導法、最新事情や具体的な事例、情報モラルなどを更新講習で習得することが求められていると考える。

世界中の企業はもちろん個人レベルにおいてもICTを活用していくことは必至であり、その技術革新やソフト開発の速度は加速化している。世界の教育から見ると日本の教育界においてはICT活用が遅れをとっているといわれているが、そうしたことから今後の教

員免許更新制での高度化には必須と考えられる。

図 1 : ICT

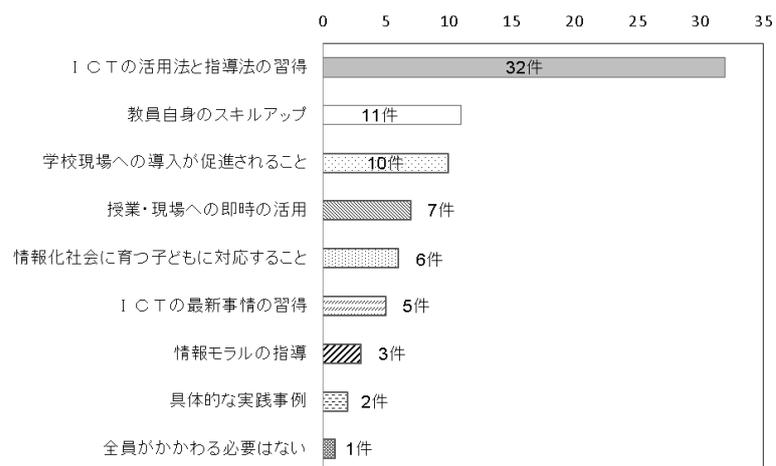


図 2 : ICT

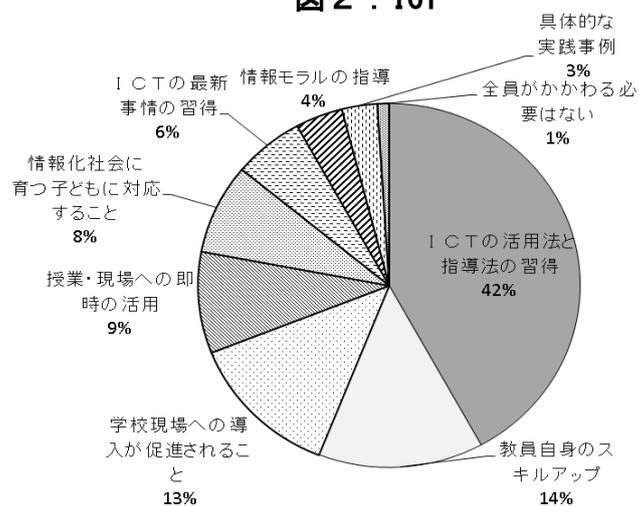


図3：道徳

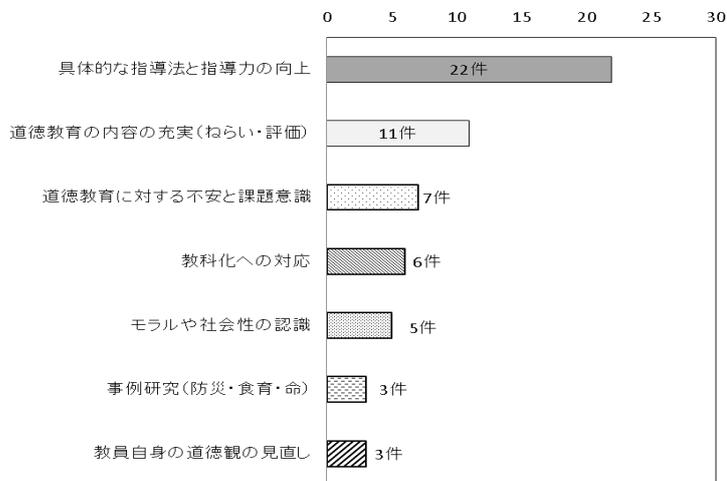


図4：道徳

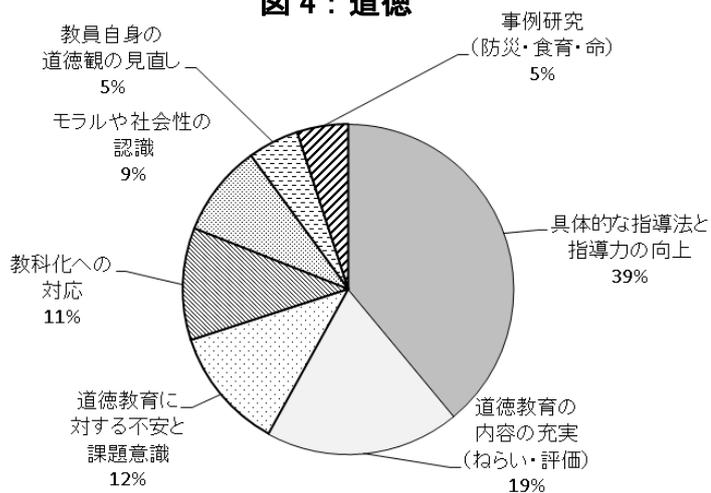


図5：英語

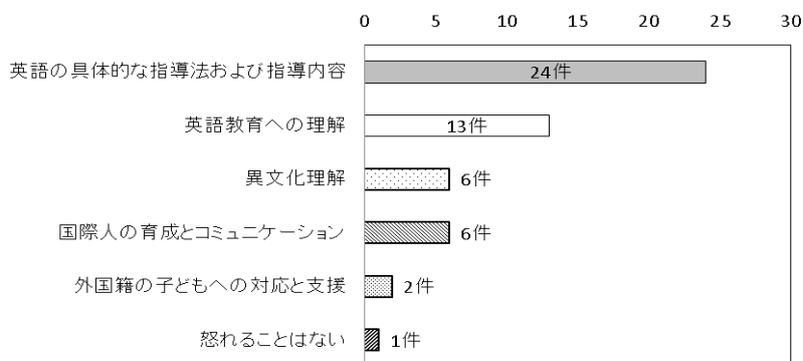


図 6 : 英語

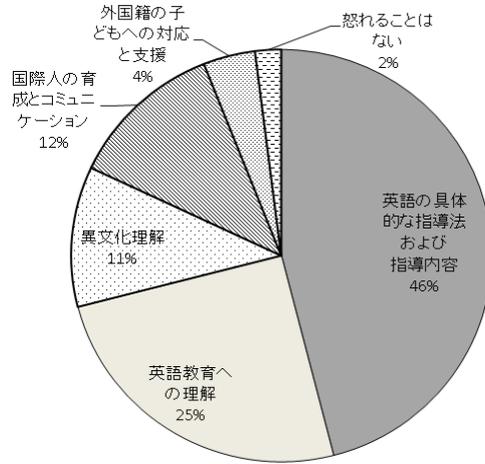


図 7 : 生徒指導

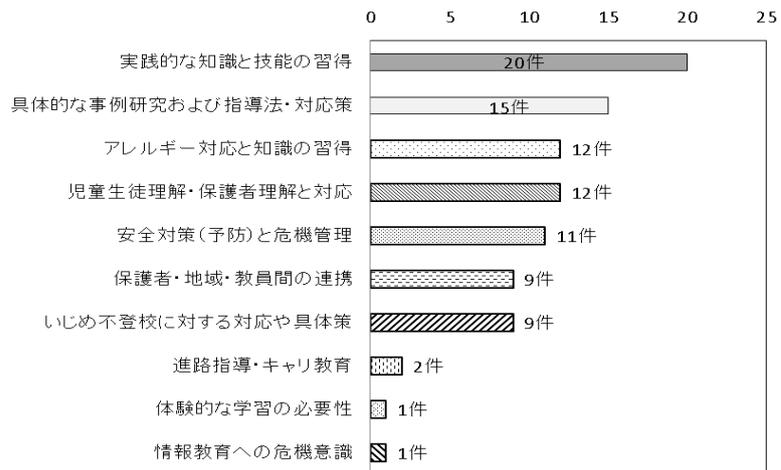


図 8 : 生徒指導

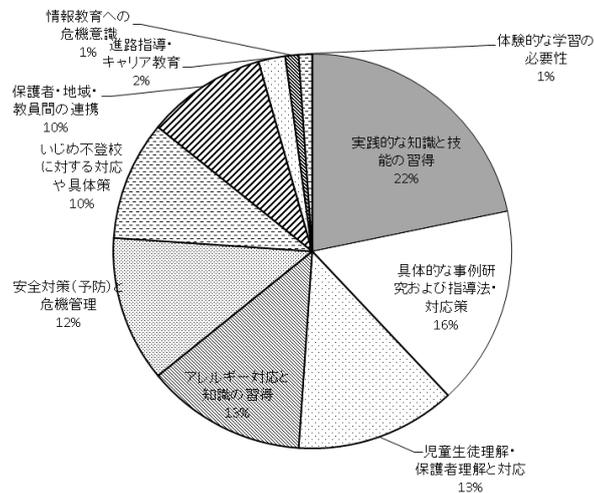


図 9：特別支援

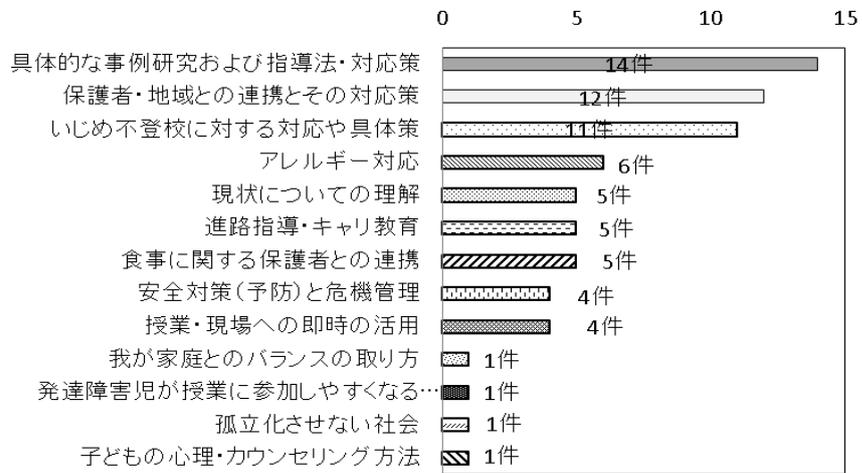
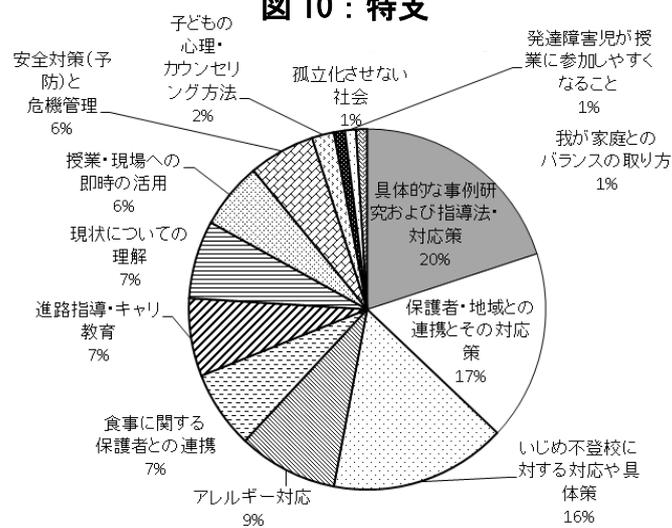


図 10：特支



【ICT】

1. 設問内容・・・本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：クラウドコンピューティングサービスの教育活用	48.6%
2位：iPadの教育利用	28.6%
3位：電子黒板の授業活用	2.0%

2. 設問内容・・・本講習を学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：iPadの教育利用	42.9%
2位：クラウドコンピューティングサービスの教育活用	34.3%
3位：電子黒板の授業活用	20.0%

3. 設問内容・・・本講習を受講して、さらに深く学びたい内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：iPadの教育利用	34.3%
1位：クラウドコンピューティングサービスの教育活用	34.3%
2位：電子黒板の授業活用	28.6%

ちょっとした工夫で「夢」が広がる ICT 活用授業というテーマで、クラウドコンピューティングを iPad で授業活用してもらう実践講習を実施した。

PC、iPad、iPhone、その他タブレット型 PC や Android スマートフォンを参加者に持参してもらい、具体的に教育現場で実践に活用できる内容を伝えた。

参加者 35 名中、教育委員会所属の 2 名を除き、33 名が現職の教員であり、iPad やネットワークを有効活用した実践模擬授業に真剣に取り組んでいた。

「本講習を受講して、興味を持った内容」として、約半数の 48.6%が、「クラウドコンピューティングサービスの教育活用」をあげており、興味の深さが伺える。また、「本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容」として 42.9%の受講者が「iPad の教育利用」をあげ、「クラウドコンピューティングサービスの教育活用」の 34.3%を含めて、全体の 77.2%の受講者が、教育現場に戻った時に、iPad を利用してクラウドコンピューティングを授業で活用したいと答えていた。「本講習を受講して、さらに深く学びたい内容」と

しても、iPad 活用とクラウドコンピューティングを 68.6%の参加者があげていることから、現実的に授業活用するための手段としてさらに学び取りたいという意識が伺える。

現職の教員は、毎日の授業実践とその準備にあけくれ、授業ごとに PC やシステム等の準備に多くの時間がかけられないのが実情である。その点 iPad は家電製品同様の簡易な扱い方で学習効果をあげられるので、現職教員としては現実性があるものとしてとらえていた。残念なのは公立学校の多くで、無線 LAN を含め、ネットワークを授業で自由に使うことの出来ない、あるいは制限がかけられているという事実があり、そのため児童生徒との調べ学習やそれらを共有活用するためのクラウドコンピューティングの活用が無理があることを懸念する声が多かった。この点は各自治体や教育委員会に正しい理解をお願いしたいと思う。

講習全体を通して、義務でイヤイヤ参加している感の受講者はおらず、積極的に新しい技術を学び取り、明日の自分の授業に活かして行こうとする受講者が多かったと感じている。

2. 道徳教育

最も期待する成果としては、「具体的な指導法と指導力の向上」であり回答率は38.6%であった。次の「道徳教育の内容の充実（ねらい・評価）」は19.3%、「道徳教育に対する不安と課題意識」は12.3%であることから、その差は顕著であり「具体的な指導法と指導力の向上」が最も期待されていることがわかる。

この結果は、平成19年6月の教育再生会議での「徳育を教科化し、現在の『道徳の時間』よりも指導内容、教材を充実させる」や、平成25年2月の教育再生会議での「心と体の調和の取れた人間の育成に社会全体で取り組む。道徳を新たな枠組みによって教科化し、人間性に深く迫る教育を行う」などの影響が反映された結果でもありと考える。

現行の学習指導要領では、道徳は教科に属さない教科外活動であるが、本調査が実施された時期には、道徳の教科化が実現される可能性が高いという社会的な気運もあり、教科化に向けた具体的な道徳の指導法や指導力の向上が最も期待され、その内容（ねらい・評価）の充実を求めていると考える。平成26年10月の中教審答申で道徳の時間を教育課程上『特別の教科道徳』（仮称）として新たに位置付けられ、今後の教員免許状更新講習では益々高度で具体的な指導法や内容が求められると考える。

また、「教科化」されることへの対応に不安や課題を感じている教員がいることも現れており、これらを解消するためにも一層具体的な道徳教育のねらいや評価法、事例研究などを示すことが求められていると考える。

一方で教授する立場である教員自身のモラルや社会性、道徳観に対して教員免許状更新講習がそれらを見直す機会としての役割が求められていることがわかり、こうした観点を含んだ講習をすべきと考える。

各教科で育まれる道徳的な価値意識や日常生活での道徳的な学びが関連し合い、指導が広がる視点から『特別の教科』になったことを踏まえ、「道徳教育の要」としての役割を果たす体制づくりに加え、具体的な指導内容や指導法が期待される。教員養成の観点からも、これからは「読む」道徳から「考える」道徳への視点を加える意味で今後の課題として示唆を含む結果であったと考える。

【道徳】

1. 設問内容・・・本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：「道徳の時間」の事例研究について	40.0%
2位：「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて	30.0%
3位：「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について	20.0%
4位：「道徳の時間」の学習指導案作成演習について	10.0%

「事例研究について」が最多選択。これまで自分が行ってきた道徳の時間の学習指導について再点検したい意図が伺える。道徳の時間の指導法に関する知識不足の補充、不安の解消をしたい意識が根底にあると考えられる。

「学習指導を充実させるポイントについて」が僅差選択。これまで道徳の時間の学習指導を行っているが、うまくいかないという意識があり、その要因改善策を確認・学習したいという意図が伺える。

「各学習指導過程の役割と指導の工夫について」と「学習指導案作成演習について」の選択。これまで理解していた道徳の時間の学習指導過程及び道徳学習指導案作成に関する知識について、確認・学習したい意図が伺える。教師生活の中で、道徳学習指導案作成経験がゼロ・少ないという現実がある。

2. 設問内容・・・本講習を学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について	40.0%
2位：「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて	25.0%
2位：「道徳の時間」の学習指導案作成演習について	25.0%

「各学習指導過程の役割と指導の工夫」が最多選択。道徳の学習指導過程の役割やその役割実現に向けた指導の工夫を理解することで、日頃の学習指導を充実に活かせるという実感を得たことが伺える。道徳の時間の学習指導過程に関する研修機会が少なかったのであろう。

「学習指導を充実させるポイントについて」と「学習指導案作成演習について」が同数選択。選択肢「各学習指導過程の役割と指導の工夫」の理由と併せ、1の設問でコメントした「これまで理解していた道徳の時間の学習指導過程及び道徳学習指導案作成に関する知識について、確認・学習したい」という意図が伺える。

3. 設問内容・・・本講習を受講して、さらに深く学びたい内容をひとつ選び、番号に○してください。

1位：「道德の時間」の事例研究について	40.0%
2位：「道德の時間」の学習指導案作成演習について	25.0%
3位：「道德の時間」の学習指導を充実させるポイントについて	20.0%
4位：「道德の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について	15.0%

「事例研究について」が最多選択。教師は常に効果的な授業実践をするための研修努力を心がける存在である。これまで自分がおこなってきた道德の時間の学習指導について再点検・学習できたが、さらに他の事例研究を通して、より確かなものとしたいという意図が伺える。

「学習指導案作成演習について」「学習指導を充実させるポイントについて」「各学習指導過程の役割と指導の工夫」が僅差で続く。今回学んだことが刺激となり、指導に活かしたいという意欲の高まりが伺える。受講者のニーズに応じて選択者数が上下している。

◇講習内容の意図について

テーマは「道德の時間の指導力アップ」

道德の時間の指導力を向上させるためには、以下の内容理解等が不可欠である。

- 1、児童生徒相互、児童生徒と教師との信頼関係が構築や指導計画に基づく指導ができていること
- 2、道德の時間の指導を要として教育活動全体を通じて行う道德教育の指導が重要という意味と指導方法が理解できていること
- 3、要となる道德の時間の指導原理が理解できていること
- 4、道德学習指導案を作成する意義と作成方法が理解できていること

講習内容とアンケート選択肢は、それらを踏まえて構成している。

《選択肢1》は、道德の時間の学習指導を充実させるための基本条件の共通理解

《選択肢2》は、道德の時間の学習指導を充実させるための基本的知識の共通理解

《選択肢3》は、道德の時間の学習指導の実際（視聴）に基づく意見交換

《選択肢4》は、道德の時間の学習指導案立案についての共通理解と立案演習

3.小学校英語

最も期待する成果としては、「英語の具体的な指導法および指導内容」であり回答率は46.2%であり、次の「英語教育への理解」は25.0%、「異文化理解」と「国際人の育成とコミュニケーション」は11.5%であることから、その差は顕著であり「英語の具体的な指導法および指導内容」が最も期待されていることがわかる。

小学校において外国語活動は現行の学習指導要領では教科に属さない教科外活動であるが、平成23年度から第5・第6学年において年間35単位時間で必修化されている。文部科学省は平成25年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」において小学校中学年から活動型（週に1～2コマ程度）の授業を学級担任が中心になって指導し、高学年においても教科型（モジュール授業も活用・週に3コマ程度）の指導を英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員も積極的に活用しながら指導すると発表している。

同計画においては専科制である中学校の英語の授業を英語で行うことを基本とし、高等学校では授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化（発表・討論・交渉等）することを目指している。

これらは、初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境を推進するために、小学校における英語教育の拡大と強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的な充実を図ること指しており、平成26年度から逐次的改革を推進している。

その実現のために小・中・高等学校における指導体制も強化されている。小学校では英語教育推進リーダーの加配措置や養成研修、教員養成課程・採用の改善充実などがあり、中・高等学校では英語教育推進リーダーの養成や外部検定を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証するなどとしている。

以上の背景を踏まえれば、本調査結果の「英語教育への理解」を深めながら「英語の具体的な指導法および指導内容」を学びたいと求めるのは当然であり、そのニーズは非常に高いと考えられる。

また少数派ではある「外国籍の子どもへの対応と支援」は、グローバル化が進むことで日本の学校にも外国籍の子どもが増える可能性があるとするれば、現場の教員にとっては重大な課題の一つでもあり、子どもを含め保護者との関係性を構築するためにも自身の英語力のスキルアップや異文化を理解するための講座が求められると考える。

【小学校英語】

1. 設問内容・・・本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：絵本やチャンツの活用	58.0%
2位：必然的な状況の設定	38.0%
3位：授業の組み立て方及びその他	20.0%

絵本やチャンツの活用が、約60%と関心の高さを伺わせた。つまり、英語活動の実施から3年立ち、既に、授業の組立などはある程度できてきている。そこで、さらに具体的な指導に役立つ絵本やチャンツの活用、そして、こうしたものを使って、児童に実際に興味ある活動、発表をさせる際の、必然的な状況の設定に、興味を持たれたことがわかる。すなわち、免許状更新講習に出席されている方は、あとで直接出席者にも伺ったが、例えば、玉川大学ではこの小学校英語に絞って出席していると話している方も多くいて、講師や講習内容を事前に把握して来ている方もいるので、かなり深い内容を求めていることも伺わせる。

2. 設問内容・・・本講習を学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：絵本やチャンツの活用方法	70.0%
2位：単元構成・授業の組み立て	18.0%
3位：易しいクラスルーム・イングリッシュ	10.0%

こちらにも、絵本やチャンツを使って表現を導入する、必然的な場面が利用できる絵本を使って表現を導入するという、英語活動に取り組むためのヒントを得たのだと思われる。絵本を導入している小学校は未だ少ないので、大変興味を持たれたと理解する。さらに、チャンツを使って表現を定着させると、楽しく、易しく指導できるという、かなり具体的な指導方法に興味を持たれ、かつ、すぐに現場で活かせる内容だと理解されていることがわかる。

具体的な指導内容、指導方法を会得して、2学期からの授業に早速役立てたいと考えているみなさんの積極性と共に、すぐに役立つ指導方法を利用してみたいという、切羽詰まった状況であることも理解される。

3. 設問内容・・・本講習を受講して、さらに深く学びたい内容をひとつ選び、番号に○

をしてください。

1位：インタラクションを取る活動・ゲーム	52%
2位：小中連携の課題	42.0%
3位：担任の役割	4.0%

こちらにも、具体的な指導法を多く学びたい、また、児童と簡単な英語を使って、インタラクションを取る活動を学びたいという、意欲を感じる。既に、担任が積極的に授業に関わろうとしているので、担任の役割などにはもはや関心がなく、すぐに使える指導法などを求めている現場の真剣さが伺われる。

4. 生徒指導

最も期待する成果としては、「実践的な知識と技能の習得」であり、回答率は21.7%であった。次いで「具体的な事例研究および指導法・対応策」は16.3%、「児童生徒理解・保護者理解と対応」と「アレルギー対応と知識の習得」は13.0%であり、「安全対策（予防）と危機管理」は12.0%ということから、一つの観点だけ突出して成果を期待しているとは考えにくい。

この「生徒指導」への回答件数(92件)は他の4つの領域と比較すると顕著に回答件数が多いことがわかる。特に「英語」への回答件数は52件であり、その倍近い回答件数は教育現場の関心度やニーズの高さが推察され、複雑で多様化している生徒指導上の諸問題への対応に苦慮していることの現れと考える。

その諸問題とは、暴力行為、いじめ、不登校、高等学校中途退学、子どもの自殺、懲戒・出席停止、子どもの携帯電話・インターネットをめぐる問題、児童虐待、喫煙・飲酒・薬物乱用、性に関する問題、教育相談などであり、その予防的な指導や課題解決的な指導が求められていると考える。

本調査結果からも「いじめ・不登校に対する対応や具体策」、「アレルギー対応と知識の習得」、「進路指導・キャリア教育」「情報教育への危機管理」など具体的な問題が挙げられており、その事例を踏まえた上での実践的な指導法および対応策が求められていることがわかる。

前述した諸問題は一つ一つ重要かつ深刻な問題であり、時として生命の危機に関連し、肉体的・精神的にも大きな影響を与える問題である。しかも当事者である児童生徒本人への影響が最も大きいのは基より、クラスメイトや他の児童生徒、担任をはじめとした教職員、保護者への影響も大きいと考えられ、他の領域とは講習内容に求める質を異にしていると考ええる。さらに一過性の性質というより、その後の人生においても影響を及ぼす可能性を秘めているためより深刻であると考ええる。

担任一人の力量で解決できる問題もあると考えられるが、それらの諸問題への対応のためには、児童生徒を理解することは当然であり、保護者や地域を理解しながら教員が学校組織として共に連携しチームで支援するなどの具体的な手立てや知識・技能が要求されていると考える。

価値観が多様化する保護者や様々な家庭環境、特色のある文化や風土などを持つ地域では、学校に対する考え方も多様であり、協力的な保護者や地域ばかりではないと考えられる。児童生徒の諸問題に加え、保護者自身が問題を抱えている場合もあり、協力してくれるはずの保護者とのやり取りが困難になることもあるなど、人的資源としての関係性が形成されにくいこともあると考ええる。教員や保護者、地域などは全て子どもを守り育てることができるチームであり援助チームになれるような実践的な知識や対応策が切望されていると考える。

【生徒指導】

1.設問内容・・・本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1位・・・今日求められる生徒指導や教育相談のあり方 | 47. 4% |
| 2位・・・いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方 | 42. 1% |
| 3位・・・現代の子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう | 10. 5% |

「子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう」を理解した上で、現在学校現場で対応を求められることの多い、「いじめ等問題行動」に関心が集まり、その一方で、そうした問題をどのように解消するのかという対応上の必要性から、「生徒指導や教育相談のあり方」に関心が向かっていると分析できる。

2.設問内容・・・本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- | | |
|----------------------------------|--------|
| 1位・・・いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方 | 42. 1% |
| 2位・・・現代の子ども・若者の成長上の課題をふまえた児童生徒理解 | 31. 6% |
| 3位・・・教育相談や危機管理の考え方や実践演習 | 26. 3% |

回答がほぼ均分されたが、やはり、今日、学校現場が対応を求められることの多い、「いじめ等問題行動」とその解決方法としての「教育相談や危機管理の考え方や実践演習」に関心や期待が集まったものと言える。また、それだけでなく、その背景にある基本問題である「子ども・若者の成長上の課題」や「児童生徒理解」に対する理解が深まったことによって均分されたものと思われる。

3.設問内容・・・本講習を受講して、さらに深く学びたい内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1位・・・教育相談や危機管理の考え方や実践演習 | 63. 2% |
| 2位・・・いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方 | 21. 2% |
| 3位・・・現代の子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう | 15. 8% |

「教育相談や危機管理の考え方や実践演習」に回答が収集した。これは、今日、学校現場がいじめ等の問題行動への対応を迫られており、そうした問題行動への指導や危機対応の

必要性が自覚され、その具体的な方策として「教育相談や危機管理の考え方や実践演習」をさらに学びたいという意識や期待が集まったものと思われる。

5.特別支援教育

最も期待する成果としては、「具体的な事例研究および指導法と・対応策」であり回答率は20.0%であった。次の「保護者・地域との連携とその対応策」は17.1%、「いじめ不登校に対する対応や具体策」は15.7%であり、「生徒指導」と同様に、「ICT」、「道徳」、「英語」と比較すると回答率ではその差は見られない傾向がある。つまり、受講者が期待する成果は多岐にわたっていると考えられる。

平成25年5月1日付の文部科学省の発表によると、国・公・私立の特別支援学校（全区分）に通う在籍幼児児童生徒数は以下の通りである。

幼児：1604人、小学部：37619人、中学部：29554人、高等部：63793人

一方で、公立の小・中学校における通級学級による指導を受けている児童生徒数は以下の通りである。

小学校：自校通級 31753人、他校通級 35468人、巡回指導 3703人

中学校：自校通級 3347人、他校通級 2994人、巡回指導 617人

出典：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm

通級による指導は、小・中学校の通常の学級に在籍し、言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）などのある児童生徒を対象として、主として各教科などの指導を通常学級で行いながら、障害に基づく学習上又は生活上の困難の改善・克服に必要な特別の指導を特別で行う教育形態である。

この多くの児童生徒たちが通級学級による特別の指導を受けている現状、つまり、特別支援学校ではなく通常の学級担任のもとで特別な支援を要する児童生徒たち共に学んでいることにより、その指導を実践している教員が大勢いるということである。この現状を踏まえ、特別支援教育について考えるためにはその背景にある共生社会の形成に向けた取り組みであるインクルーシブ教育システムについて考える必要がある。

障害者の権利に関する条約第24条によれば、「インクルーシブ教育システム」とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者の精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由に社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられていること、個人に必要な「合理的配慮」が提供されるなどが必要とされている。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm

このインクルーシブ教育システムの推進・実現のためには、初等中等教育に関わる教員の理解をはじめ、具体的な取り組みにつながる事例研究および指導法・対応策の充実を図る必要があり、本調査結果にも反映されていると考えられる。

特別な支援や多様なニーズに応え、障害の有無に関わらず共に学ぶ学級・学校をつくる

ためにも保護者や地域との連携も必要であり、それぞれの事例や症状に即時対応できる具体策を要求している結果であると考える。

生命に直結する視点として、アレルギー対応を含む食事に関することについて関心が高いことがわかり、特に保護者との連携について課題意識があると考えられる。

また、特別な支援を必要とする児童生徒はいじめ（孤立化を含む）や不登校の対象になることへの懸念や、心理面と身体面への安全対策、将来の進路のことなども心配している傾向がみられる。

本調査対象者の年齢は前述した通り、30代が55.0%、40代が5.0%、50代が40.0%であるが、平成9年に施行された「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験特例法）」との関連を考えておきたい。

この法律により、小・中学校の教員免許状の取得を希望する者は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設において5日間、計7日間の介護等体験を実施することになったのであるが、本調査対象の40代以上の者はこの対象ではなく、特別支援学校と社会福祉施設での介護等体験は未経験である。この法律が施行されて20年以上が経過し、その成果の検証は専門家に委ねるが特別支援教育を考える上で重要な意義があると考えられる。

こうした教員養成制度も含めた社会全体としての取り組みが、今後の特別支援教育を考える上で必要であり、現状を踏まえた上での具体的な指導法や対応策が求められていると考える。

【特別支援】

1. 設問内容・・・本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：認知発達（知覚・聴覚）	60.0%
2位：適応行動（ソーシャルスキル）	32.5%
3位：運動発達（身体図式）	5.0%

2. 設問内容・・・本講習を学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：認知発達（知覚・聴覚）	50.0%
2位：適応行動（ソーシャルスキル）	43.8%
3位：運動発達（身体図式）	2.5%

3. 設問内容・・・本講習を受講して、さらに深く学びたい内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

1位：適応行動（ソーシャルスキル）	63.8%
2位：認知発達（知覚・聴覚）	28.8%
3位：運動発達（身体図式）	5.0%

以上の結果から、①現場では、学校生活上課題性の高い「認知」や「行動」の側面に意識が集中し、運動発達の側面で発達障害児が有する「ぎこちなさ（不器用さ）」への意識の低さが伺われた。②また、集団適応上の指導等に苦慮しており、研修の必要性を考えていることが推察された。

まとめ

設問7で選んだ内容（ICT・道徳・英語・生徒指導・特別支援）が選択必修領域の講習となる場合の期待する成果について自由記述を基に重要なキーワードをKJ法にて集約し、回答件数および回答率の高い項目に着目し考察をおこなった。

本研究のまとめとしては、今回の研究対象者は上記の選択必修領域を受講するにあたり「事例研究を伴いながら具体的な指導内容や指導法・対応策を学ぶこと」を成果として最も期待しているということである。

その背景には教員自身が初等・中等教育で教授を受けていない教科の教科化、あるいは

経験してこなかった技能が学校教育の中でも一般的・汎用的になり、その新たな教科や技能への不安から、各領域のそれぞれの具体的な事例を踏まえながら指導内容や指導法・対応策などを学ぶことを求めていると考える。

その一方で、指導法や対応策などの方法論、いわゆる「How to」あるいは「即時性のある手法」を得る場としてのみの教員免許状更新講習になることには警鐘を鳴らしておきたい。教育現場で今後、ミドルリーダーや管理職としての活躍を期待されていることを自覚し、その責任を持ちながら自ら学ぶ意欲を高め、自己研鑽を積み、学び続ける教師を実現できる機会としての教員免許状更新講習であることを必要があると考えます。

まとめ—新たな必修領域・選択必修領域の構成のために

成功する更新講習—実践への活用・学術的関心の両立

教員免許状更新講習の現行必修領域において、優先度の高い項目と優先度の低いそれを検証することにより、更新講習における受講者のニーズについて検証した。分析結果から教員は更新講習に対し、自らの職務内容に直結する内容、現場での指導に直ちに生かせる内容に期待している傾向が高いことである。もう一つの要素は、学術的・専門的内容への支持である。とりわけ目立ったのは、約半数の受講者が高い優先度を示した「3. 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」には、この両方の求めによく合致する内容であって、高い需要が示された。回答者の多くは、特別な支援を要する子どもへの対応に課題をもっており、講習から効果的な指導方法や対応策を把握したいと考えていたと思われる。他に比較的優先度の高かった「4. 子どもの生活の変化を踏まえた課題」、「1. 学校を巡る近年の状況変化」についても、職務の過程で子ども、家庭、学校の変化に戸惑いや課題を抱いているため、正確な状況を把握し、その対処法を知りたいという期待が背景にあるといえる。

逆にいえば、自治体や校内の研修会でもよく取りあげられる内容、教員の日常的な実践に直結しないと思われる内容、管理職マターの内容は、大学の更新講習で取りあげることに対しては高い支持は示されなかった。「5. 学習指導要領の改訂の動向等」、「8. 学校における危機管理上の課題」、「6. 法令改正及び国の審議会の状況等」、「7. 様々な問題に対する組織的対応の必要性」などである。研修と大学での更新講習との違いを問い直し、両者間の関係性・整合性を明確にして、それを教員に十分に認知させる必要がある。もちろん、講習を提供する大学側も、教員が日頃受講している研修の内容に目配りしつつ、大学で行う講習の意義をふまえた上で、受講者である教員のニーズに応えるように努める必要があるだろう。

更新制改善の方向への支持

選択必修領域の導入については、約4分の3の受講者が望ましいと考えていた。そして、提示された内容のなかで、受講者が優先的に受講したいと考える項目として、「教育相談(いじめ、不登校対応含む)」が半数を占めた。次に、「教育の情報化」、「食に関する指導」がそれぞれ約3割程度となっていた。そして、優先したい受講内容は、受講者の勤務校によって大きく差が生じる傾向があった。幼稚園は「食に関する指導」と「防災教育」、小学校は「英語教育」と「道徳教育」、中学・高校については「進路指導・キャリア教育」を回答する者の比率が明らかに高かった。それぞれの内容を選んだ理由として、自らが現在直面している課題である、今後新たに指導力が求められる領域である、というような回答が一般的に目立っていた。

選択必修領域の導入に対しては、この領域が現代的課題を取りあげており、教師の日常的な教育活動との関わりが強い内容を自らの関心に基づいて選択できる点が、おおむね良

好な評価につながっているが、受講者の勤務校種により回答が大きく分かれているテーマもあり、教員それぞれが抱く課題、関心を寄せる領域は多様であることへの対象が必要である。選択必修領域の導入は、教員のもつ多様なニーズに対応するものとして期待されているといえよう。

選択必修領域の在り方

選択必修領域の在り方として、「事例研究を伴いながら具体的な指導内容や指導法・対応策を学ぶこと」を成果として最も期待しているということに留意することが重要である。その背景には教員自身が初等・中等教育で教授を受けていない教科の教科化、あるいは経験してこなかった技能が学校教育の中でも一般的・汎用的になり、その新たな教科や技能への不安から、各領域のそれぞれの具体的な事例を踏まえながら指導内容や指導法・対応策などを学ぶことを求めていることがある。

教員が、ミドルリーダーや管理職としての活躍を今後期待されていることをも自覚し、自ら学ぶ意欲を高め、自己研鑽を積み、「学び続ける教師」を実現できる機会としての教員免許状更新講習としていきたいものである。

おわりに

本調査研究事業は、玉川大学において開講された教員免許状更新講習の場を活用して、受講者の需要調査を行うとともに、特に新たな枠組みでの開講内容、方法等の研究を中心に進められたものである。実際には、平成26年8月の暑いなかでの意識調査の実施に、多くの講習受講者の方々が積極的にご協力くださり、必要な調査資料を得ることができた。調査の結果も報告において示したように、今後の教員免許更新講習の制度的改善に何らかの参考材料となるものであって委託研究に取り組んだ者として安堵しているところである。

平成26年3月には文部科学省から、「教員免許更新制度の改善について（報告）」がまとめられ公表された。ここで示されている我が国の教員免許更新制の充実と発展に本調査研究事業も少なからずお役に立てることと思われる。本調査研究事業をもとに今後も玉川大学として教員免許更新制のための開発研究に取り組みたいと思う。

最後に本調査研究事業に対して文部科学省の適切なお指導、外部有識者会議で有益なお意見をいただいた委員各位、調査チームの一員に加わり大学と教育委員会との議論を実現して下さった関係教育委員会各位に心からの御礼を申し上げます。

資料 1

(講座別資料)

選択[ICT]	回答数 (%)
Q1 (優先して受講したい細目)	
1 国の教育政策や世界の教育の動向	5 14.3%
2 教員としての子ども観、教育観等についての省察	0 0.0%
3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	13 37.1%
4 子どもの生活の変化を踏まえた課題	17 48.6%
Q2 (優先度が高い理由) 【自由記述】	
Q3 (優先度の低い細目)	
1 国の教育政策や世界の教育の動向	19 54.3%
2 教員としての子ども観、教育観等についての省察	10 28.6%
3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	1 2.9%
4 子どもの生活の変化を踏まえた課題	5 14.2%
Q4 (必修領域が4領域に絞られ12時間中残る6時間については選択必修となることについてどう評価するか) 【自由記述】	
Q5 (今回受講して活用できる内容はどれか) 【複数回答】	
1 指導に関わる基本的な知識を習得したこと	17 48.6%
2 指導を充実するポイントについて理解したこと	13 37.1%
3 指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと	14 40.0%
4 指導事例を学び、指導計画作成が容易になる事	5 14.2%
5 その他	3 8.6%
Q6 (授業活用のヒントはどちらに含まれるか)	
1 必修領域に多く含まれる	1 2.9%
2 選択領域に多く含まれる	25 71.4%
3 どちらともいえない	7 20.0%
Q7 (必修選択制導入に伴い、優先して受講したい項目) 【2つ回答】	
9 国の教育政策や世界の教育の動向 * 最初から〇してあ (100%)	
10 英語教育	5 14.3%
11 道徳教育	3 8.5%
12 教育相談(いじめ・不登校対応を含む)	6 17.0%
13 進路指導・キャリア教育	4 11.4%
14 国際理解・異文化理解教育	8 22.9%
15 教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等)	27 77.1%
16 学校・家庭・地域の連携・協働	4 11.4%
17 防災教育	6 17.1%
18 食に関する指導(アレルギー対応を含む)	3 8.6%
Q8 (Q7で選んだ内容が選択必修領域となる場合、受講して期待する成果は) 【自由記述】	

	回答数 (%)
Q9 (更新目的の免許及び在籍する学校種)	
1 幼免	0 0.0%
2 小免	14 40.0%
3 中免	6 17.1%
4 高免	9 25.7%
5 特支免	1 2.9%
6 その他	2 5.7%
(年齢)	
1 30代	14 40.0%
2 40代	10 28.6%
3 50代	10 28.6%
(性別)	
1 男	21 60.0%
2 女	13 37.1%
(職名)	
1 教諭	26 74.3%
2 助教諭	0 0.0%
3 養護教諭	0 0.0%
4 養護助教諭	0 0.0%
5 常勤講師	1 2.9%
6 非常勤講師	4 11.4%
7 その他	2 5.7%

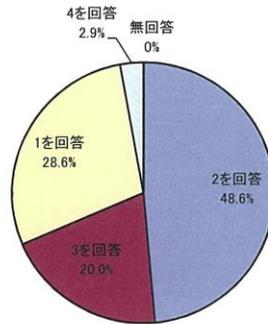
★ICT

設問5-2の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.iPadの教育利用
- 2.クラウドコンピューティングサービスの教育活用
- 3.電子黒板の授業活用
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	10	28.6%
2を回答	17	48.6%
3を回答	7	20.0%
4を回答	1	2.9%
無回答	0	0.0%
合計	35	



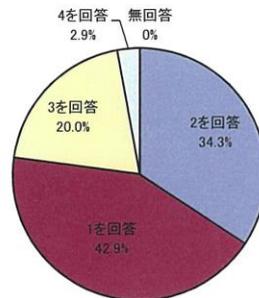
★ICT

設問5-3の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.iPadの教育利用
- 2.クラウドコンピューティングサービスの教育活用
- 3.電子黒板の授業活用
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	15	42.9%
2を回答	12	34.3%
3を回答	7	20.0%
4を回答	1	2.9%
無回答	0	0.0%
合計	35	



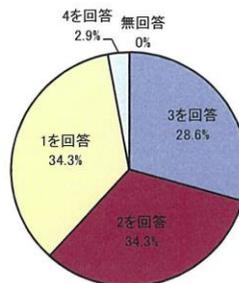
★ICT

設問5-4の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、さらに深く学びたい内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.iPadの教育利用
- 2.クラウドコンピューティングサービスの教育活用
- 3.電子黒板の授業活用
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	12	34.3%
2を回答	12	34.3%
3を回答	10	28.6%
4を回答	1	2.9%
無回答	0	0.0%
合計	35	



選択【道徳】	回答数 (%)	回答数 (%)
Q1 (優先して受講したい細目) 1 国の教育政策や世界の教育の動向 2 10.0% 2 教員としての子ども観、教育観等についての省察 2 10.0% 3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む) 10 50.0% 4 子どもの生活の変化を踏まえた課題 6 30.0%		Q9 (更新目的の免許及び在籍する学校種) 1 幼免 1 5.0% 2 小免 9 45.0% 3 中免 9 45.0% 4 高免 0 0.0% 5 特支免 0 0.0% 6 その他 1 5.0%
Q2 (優先度が高い理由) 【自由記述】		(年齢) 1 30代 11 55.0% 2 40代 1 5.0% 3 50代 8 40.0%
Q3 (優先度の低い細目) 1 国の教育政策や世界の教育の動向 8 40.0% 2 教員としての子ども観、教育観等についての省察 9 45.0% 3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む) 2 10.0% 4 子どもの生活の変化を踏まえた課題 1 5.0%		(性別) 1 男 3 15.0% 2 女 17 85.0%
Q4 (必修領域が4領域に絞られ12時間中残る6時間については選択必修となることについてどう評価するか) 【自由記述】		(職名) 1 教諭 19 95.0% 2 助教諭 0 0.0% 3 養護教諭 0 0.0% 4 養護助教諭 0 0.0% 5 常勤講師 0 0.0% 6 非常勤講師 1 5.0% 7 その他 0 0.0%
Q5 (今回受講して活用できる内容はどれか) 【複数回答】 1 指導に関わる基本的な知識を習得したこと 12 60.0% 2 指導を充実するポイントについて理解したこと 15 75.0% 3 指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと 6 30.0% 4 指導事例を学び、指導計画作成が容易になる事 6 30.0% 5 その他 0 0.0%		
Q6 (授業活用のヒントはどちらに含まれるか) 1 必修領域に多く含まれる 0 0.0% 2 選択領域に多く含まれる 13 65.0% 3 どちらともいえない 4 20.0%		
Q7 (必修選択制導入に伴い、優先して受講したい項目) 【2つ回答】 9 国の教育政策や世界の教育の動向 *最初から〇してある (100%) 10 英語教育 3 15.0% 11 道徳教育 8 40.0% 12 教育相談(いじめ・不登校対応を含む) 12 60.0% 13 進路指導・キャリア教育 0 0.0% 14 国際理解・異文化理解教育 0 0.0% 15 教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等) 8 40.0% 16 学校・家庭・地域の連携・協働 3 15.0% 17 防災教育 3 15.0% 18 食に関する指導(アレルギー対応を含む) 3 15.0%		
Q8 (Q7で選んだ内容が選択必修領域となる場合、受講して期待する成果は) 【自由記述】		

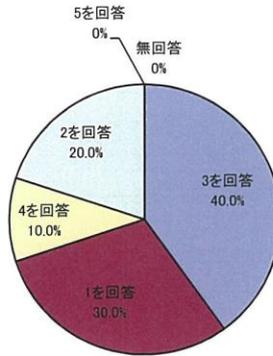
★道徳

設問5-2の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて
- 2.「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について
- 3.「道徳の時間」の事例研究について
- 4.「道徳の時間」の学習指導案作成演習について
- 5.その他()

	回答人数	%
1を回答	6	30.0%
2を回答	4	20.0%
3を回答	8	40.0%
4を回答	2	10.0%
5を回答	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	20	



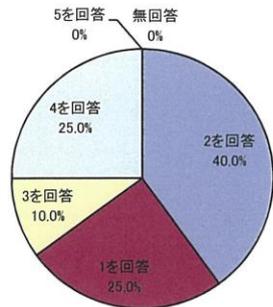
★道徳

設問5-3の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて
- 2.「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について
- 3.「道徳の時間」の事例研究について
- 4.「道徳の時間」の学習指導案作成演習について
- 5.その他()

	回答人数	%
1を回答	5	25.0%
2を回答	8	40.0%
3を回答	2	10.0%
4を回答	5	25.0%
5を回答	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	20	



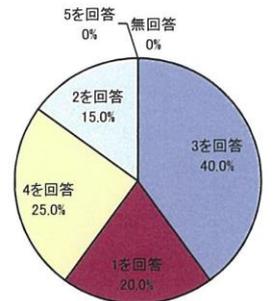
★道徳

設問5-4の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.「道徳の時間」の学習指導を充実させるポイントについて
- 2.「道徳の時間」の各学習指導過程の役割と指導の工夫について
- 3.「道徳の時間」の事例研究について
- 4.「道徳の時間」の学習指導案作成演習について
- 5.その他()

	回答人数	%
1を回答	4	20.0%
2を回答	3	15.0%
3を回答	8	40.0%
4を回答	5	25.0%
5を回答	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	20	



選択【小学校英語】		回答数 (%)	
Q1	(優先して受講したい細目)		
1	国の教育政策や世界の教育の動向	4	8.0%
2	教員としての子ども観、教育観等についての省察	4	8.0%
3	子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	22	44.0%
4	子どもの生活の変化を踏まえた課題	20	40.0%
Q2	(優先度が高い理由) 【自由記述】		
Q3	(優先度の低い細目)		
1	国の教育政策や世界の教育の動向	20	40.0%
2	教員としての子ども観、教育観等についての省察	22	44.0%
3	子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	5	10.0%
4	子どもの生活の変化を踏まえた課題	3	6.0%
Q4	(必修領域が4領域に絞られ12時間中残る6時間については選択必修となることについてどう評価するか) 【自由記述】		
Q5	(今回受講して活用できる内容はどれか)【複数回答】		
1	指導に関わる基本的な知識を習得したこと	25	50.0%
2	指導を充実するポイントについて理解したこと	40	80.0%
3	指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけた	32	64.0%
4	指導事例を学び、指導計画作成が容易になる事	22	44.0%
5	その他	1	2.0%
Q6	(授業活用のヒントはどちらに含まれるか)		
1	必修領域に多く含まれる	2	4.0%
2	選択領域に多く含まれる	34	68.0%
3	どちらともいえない	3	6.0%
Q7	(必修選択制導入に伴い、優先して受講したい項目)【2つ回答】		
9	国の教育政策や世界の教育の動向 *最初から〇してある項目 (100%)		
10	英語教育	24	48.0%
11	道徳教育	16	32.0%
12	教育相談(いじめ・不登校対応を含む)	20	40.0%
13	進路指導・キャリア教育	2	4.0%
14	国際理解・異文化理解教育	9	18.0%
15	教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等)	14	28.0%
16	学校・家庭・地域の連携・協働	1	2.0%
17	防災教育	4	8.0%
18	食に関する指導(アレルギー対応を含む)	10	20.0%
Q8	(Q7で選んだ内容が選択必修領域となる場合、受講して期待する成果は) 【自由記述】		

回答数 (%)	
Q9	(更新目的の免許及び在籍する学校種)
1	幼免 2 4.0%
2	小免 30 60.0%
3	中免 8 16.0%
4	高免 3 6.0%
5	特支免 1 2.0%
6	その他 5 10.0%
(年齢)	
1	30代 23 46.0%
2	40代 17 34.0%
3	50代 10 20.0%
(性別)	
1	男 11 22.0%
2	女 39 78.0%
(職名)	
1	教諭 41 82.0%
2	助教諭 0 0.0%
3	養護教諭 0 0.0%
4	養護助教諭 0 0.0%
5	常勤講師 2 4.0%
6	非常勤講師 3 6.0%
7	その他 4 8.0%

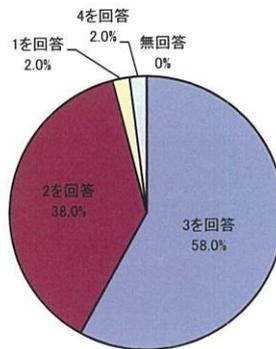
★小学校英語

設問5-2の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.授業の組み立て方
- 2.必然的な状況の設定
- 3.絵本やチャンツの活用
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	1	2.0%
2を回答	19	38.0%
3を回答	29	58.0%
4を回答	1	2.0%
無回答	0	0.0%
合計	50	



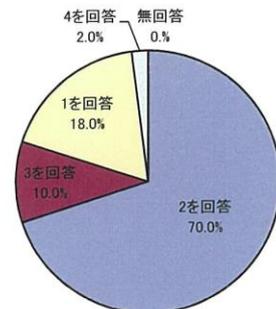
★小学校英語

設問5-3の単純集計

◆設問内容…本講習を学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.単元構成・授業の組み立て
- 2.絵本チャンツの活用方法
- 3.易しいクラスルーム・イングリッシュ
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	9	18.0%
2を回答	35	70.0%
3を回答	5	10.0%
4を回答	1	2.0%
無回答	0	0.0%
合計	50	



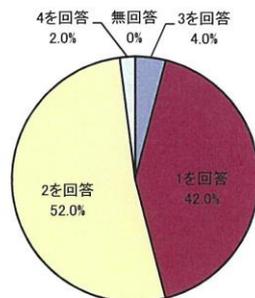
★小学校英語

設問5-4の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.小中連携の課題
- 2.インタラクションを取る活動・ゲーム
- 3.担任の役割
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	21	42.0%
2を回答	26	52.0%
3を回答	2	4.0%
4を回答	1	2.0%
無回答	0	0.0%
合計	50	



選択【特支】

回答数 (%)

Q1	(優先して受講したい細目)		
1	国の教育政策や世界の教育の動向	8	10.0%
2	教員としての子ども観、教育観等についての省察	1	1.3%
3	子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	43	53.8%
4	子どもの生活の変化を踏まえた課題	28	35.0%

Q2	(優先度が高い理由) 【自由記述】		
----	----------------------	--	--

Q3	(優先度の低い細目)		
1	国の教育政策や世界の教育の動向	39	48.6%
2	教員としての子ども観、教育観等についての省察	28	35.0%
3	子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む)	3	3.8%
4	子どもの生活の変化を踏まえた課題	10	12.5%

Q4	(必修領域が4領域に絞られ12時間中残る6時間については 選択必修となることについてどう評価するか) 【自由記述】		
----	---	--	--

Q5	(今回受講して活用できる内容はどれか) 【複数回答】		
1	指導に関わる基本的な知識を習得したこと	45	56.3%
2	指導を充実するポイントについて理解したこと	52	65.0%
3	指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと	42	52.5%
4	指導事例を学び、指導計画作成が容易になる事	15	18.6%
5	その他	0	0.0%

Q6	(授業活用のヒントはどちらに含まれるか)		
1	必修領域に多く含まれる	9	11.3%
2	選択領域に多く含まれる	47	58.8%
3	どちらともいえない	15	18.8%

Q7	(必修選択制導入に伴い、優先して受講したい項目) 【2つ回答】		
9	国の教育政策や世界の教育の動向 *最初から〇してある項目		(100%)
10	英語教育	11	13.8%
11	道徳教育	20	25.0%
12	教育相談(いじめ・不登校対応を含む)	46	57.5%
13	進路指導・キャリア教育	6	7.5%
14	国際理解・異文化理解教育	9	11.3%
15	教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等)	31	38.8%
16	学校・家庭・地域の連携・協働	11	13.8%
17	防災教育	5	6.3%
18	食に関する指導(アレルギー対応を含む)	14	17.5%

Q8	(Q7で選んだ内容が選択必修領域となる場合、受講して期待する成果は) 【自由記述】		
----	--	--	--

回答数 (%)

Q9	(更新目的の免許及び在籍する 学校種)		
1	幼免	0	0.0%
2	小免	48	62.3%
3	中免	18	23.4%
4	高免	4	5.2%
5	特支免	3	3.9%
6	その他	2	2.6%

	(年齢)		
1	30代	31	38.8%
2	40代	19	23.8%
3	50代	26	32.5%

	(性別)		
1	男	30	37.5%
2	女	46	57.5%

	(職名)		
1	教諭	64	80.0%
2	助教諭	0	0.0%
3	養護教諭	0	0.0%
4	養護助教諭	0	0.0%
5	常勤講師	2	2.5%
6	非常勤講師	5	6.3%
7	その他	4	5.0%

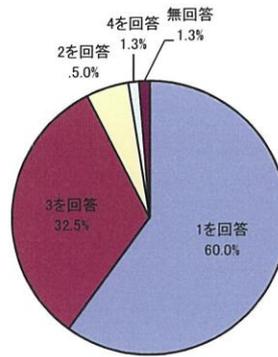
★特支

設問5-2の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.認知発達(視覚、聴覚)
- 2.運動発達(身体図式)
- 3.適応行動(ソーシャルスキル)
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	48	60.0%
2を回答	4	5.0%
3を回答	26	32.5%
4を回答	1	1.3%
無回答	1	1.3%
合計	80	



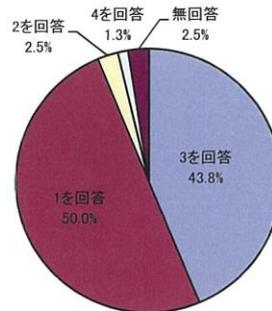
★特支

設問5-3の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.認知発達(視覚、聴覚)
- 2.運動発達(身体図式)
- 3.適応行動(ソーシャルスキル)
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	40	50.0%
2を回答	2	2.5%
3を回答	35	43.8%
4を回答	1	1.3%
無回答	2	2.5%
合計	80	



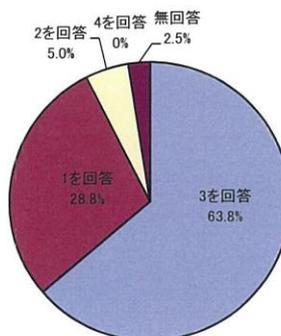
★特支

設問5-4の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.認知発達(視覚、聴覚)
- 2.運動発達(身体図式)
- 3.適応行動(ソーシャルスキル)
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	23	28.8%
2を回答	4	5.0%
3を回答	51	63.8%
4を回答	0	0.0%
無回答	2	2.5%
合計	80	



選択【生徒指導】	回答数 (%)
Q1 (優先して受講したい細目) 1 国の教育政策や世界の教育の動向 2 10.5% 2 教員としての子ども観、教育観等についての省察 0 0.0% 3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む) 5 26.3% 4 子どもの生活の変化を踏まえた課題 12 63.2%	
Q2 (優先度が高い理由) 【自由記述】	
Q3 (優先度の低い細目) 1 国の教育政策や世界の教育の動向 13 68.4% 2 教員としての子ども観、教育観等についての省察 4 21.1% 3 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む) 2 10.5% 4 子どもの生活の変化を踏まえた課題 0 0.0%	
Q4 (必修領域が4領域に絞られ12時間中残る6時間については選択必修となることについてどう評価するか) 【自由記述】	
Q5 (今回受講して活用できる内容はどれか) 【複数回答】	
1 指導に関わる基本的な知識を習得したこと 10 52.6% 2 指導を充実するポイントについて理解したこと 10 52.6% 3 指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと 8 42.1% 4 指導事例を学び、指導計画作成が容易になる事 3 15.8% 5 その他 0 0.0%	
Q6 (授業活用のヒントはどちらに含まれるか)	
1 必修領域に多く含まれる 1 5.3% 2 選択領域に多く含まれる 11 57.9% 3 どちらともいえない 3 15.8%	
Q7 (必修選択制導入に伴い、優先して受講したい項目) 【2つ回答】	
9 国の教育政策や世界の教育の動向 *最初からOしてある項目 (100%) 10 英語教育 2 10.5% 11 道徳教育 6 31.6% 12 教育相談(いじめ・不登校対応を含む) 12 63.2% 13 進路指導・キャリア教育 1 5.3% 14 国際理解・異文化理解教育 1 5.3% 15 教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等) 5 26.3% 16 学校・家庭・地域の連携・協働 7 36.8% 17 防災教育 2 10.5% 18 食に関する指導(アレルギー対応を含む) 2 10.5%	
Q8 (Q7で選んだ内容が選択必修領域となる場合、受講して期待する成果は) 【自由記述】	

	回答数 (%)
Q9 (更新目的の免許及び在籍する学校種)	
1 幼免 2 10.5% 2 小免 5 26.3% 3 中免 7 36.8% 4 高免 2 10.5% 5 特支免 0 0.0% 6 その他 3 15.9%	
(年齢)	
1 30代 7 36.8% 2 40代 7 36.8% 3 50代 5 26.3%	
(性別)	
1 男 6 31.6% 2 女 13 68.4%	
(職名)	
1 教諭 18 94.7% 2 助教諭 1 5.3% 3 養護教諭 0 0.0% 4 養護助教諭 0 0.0% 5 常勤講師 0 0.0% 6 非常勤講師 0 0.0% 7 その他 0 0.0%	

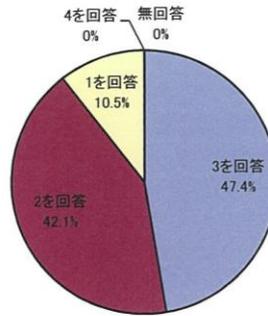
★生徒指導

設問5-2の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、興味を持った内容をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.現代の子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう
- 2.いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方
- 3.今日求められる生徒指導や教育相談のあり方
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	2	10.5%
2を回答	8	42.1%
3を回答	9	47.4%
4を回答	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	19	



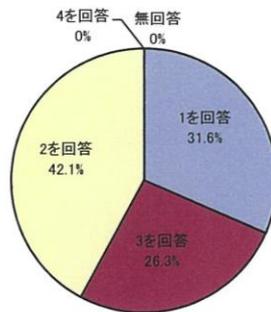
★生徒指導

設問5-3の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して学んだ中で、教育現場で最も活かせる内容を以下の選択肢からひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.現代の子ども・若者の成長上の課題をふまえた児童生徒理解
- 2.いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方
- 3.教育相談や危機管理の考え方や実践演習
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	6	31.6%
2を回答	8	42.1%
3を回答	5	26.3%
4を回答	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	19	



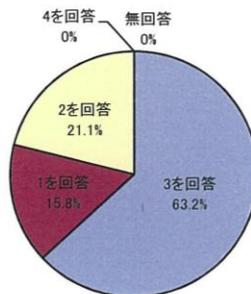
★生徒指導

設問5-4の単純集計

◆設問内容…本講習を受講して、さらに深く学びたい内容を以下の選択肢から一つ選び、番号に○をしてください。

- 1.現代の子ども・若者の成長上の課題と社会のありよう
- 2.いじめ等問題行動への理解と指導や対応の仕方
- 3.教育相談や危機管理の考え方や実践演習
- 4.その他(自由記述)

	回答人数	%
1を回答	3	15.8%
2を回答	4	21.1%
3を回答	12	63.2%
4を回答	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	19	



資料 2

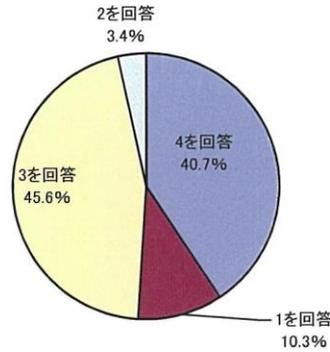
(共通設問集計)

設問1の単純集計

◆設問内容…もっとも優先して受講したいと思う細目をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.国の教育政策や世界の教育の動向
- 2.教員としての子ども親、教育親等についての省察
- 3.子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)
- 4.子どもの生活の変化を踏まえた課題

	回答人数	%
1を回答	21	10.3%
2を回答	7	3.4%
3を回答	93	45.6%
4を回答	83	40.7%
無回答	0	0.0%
合計	204	

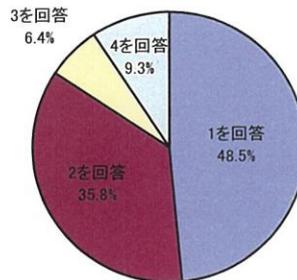


設問3の単純集計

◆設問内容…逆に、もっとも優先度の低かった細目をひとつ選び、番号に○をしてください。

- 1.国の教育政策や世界の教育の動向
- 2.教員としての子ども親、教育親等についての省察
- 3.子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)
- 4.子どもの生活の変化を踏まえた課題

	回答人数	%
1を回答	99	48.5%
2を回答	73	35.8%
3を回答	13	6.4%
4を回答	19	9.3%
無回答	0	0.0%
合計	204	

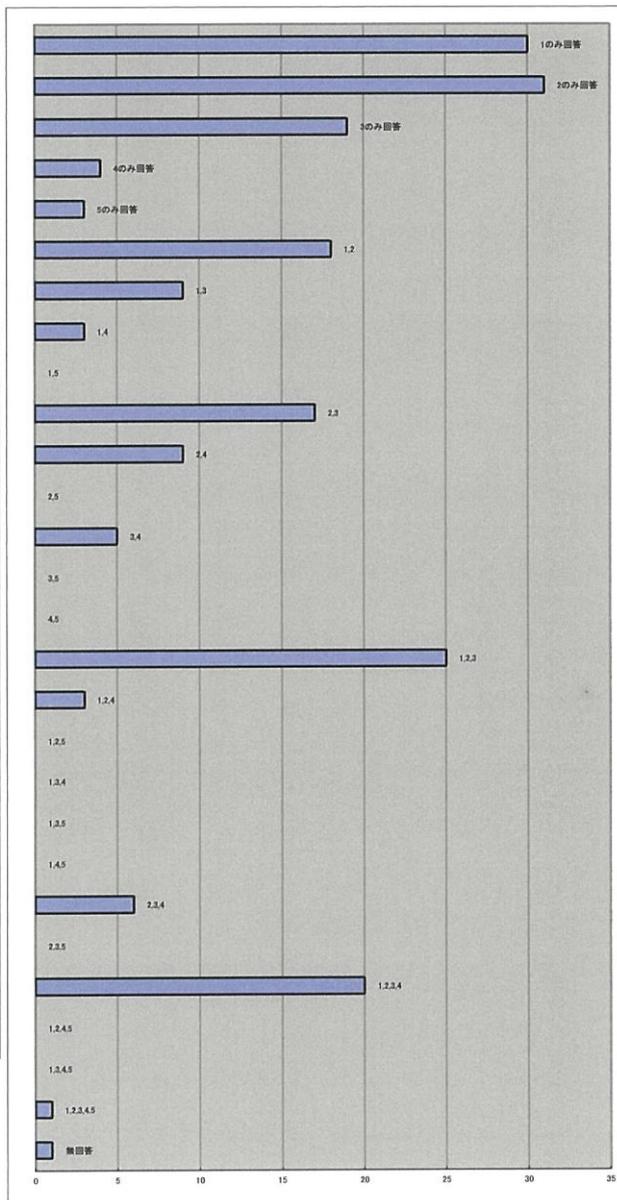


設問5の単純集計

◆設問内容…今回受講して勤務する学校・園で活用できる内容は次のどれですか。番号に○をしてください。(複数回答可)

- 1.指導に関わる基本的な知識を習得したこと
- 2.指導を充実ポイントについて理解したこと
- 3.指導を円滑に行う工夫の仕方について身につけたこと
- 4.指導事例を学び、指導計画作成が容易になること
- 5.その他()ない場合、「なし」と記入

	回答人数	%
1のみ回答	30	14.7%
2のみ回答	31	15.2%
3のみ回答	19	9.3%
4のみ回答	4	2.0%
5のみ回答	3	1.5%
1,2	18	8.8%
1,3	9	4.4%
1,4	3	1.5%
1,5	0	0.0%
2,3	17	8.3%
2,4	9	4.4%
2,5	0	0.0%
3,4	5	2.5%
3,5	0	0.0%
4,5	0	0.0%
1,2,3	25	12.3%
1,2,4	3	1.5%
1,2,5	0	0.0%
1,3,4	0	0.0%
1,3,5	0	0.0%
1,4,5	0	0.0%
2,3,4	6	2.9%
2,3,5	0	0.0%
1,2,3,4	20	9.8%
1,2,4,5	0	0.0%
1,3,4,5	0	0.0%
1,2,3,4,5	1	0.5%
無回答	1	0.5%
合計	204	

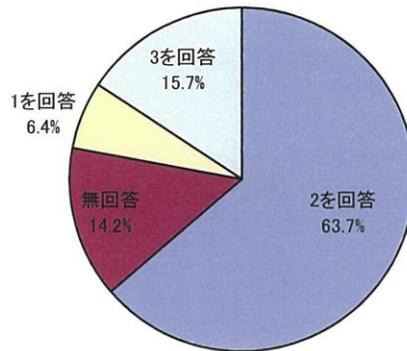


設問6の単純集計

◆設問内容…設問5で答えた授業で活用できるヒントは今受講している「必修領域」「選択領域」(この授業に限らずすべてを通して)のどちらにより多く含まれますか。 *「必修領域」をまだ未受講のかたは未記入

- 1.必修領域に多く含まれる
- 2.選択領域に多く含まれる
- 3.どちらともいえない

	回答人数	%
1を回答	13	6.4%
2を回答	130	63.7%
3を回答	32	15.7%
無回答	29	14.2%
合計	204	



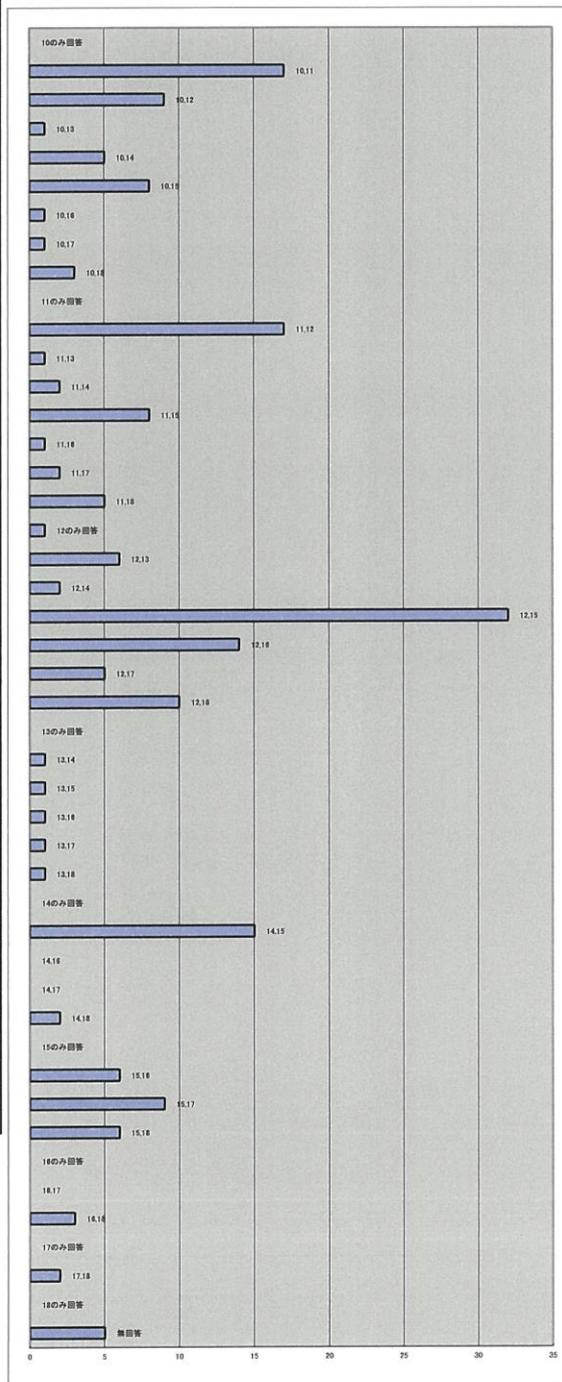
★特支・道徳・ICT・生徒指導・小学校英語

設問7の単純集計

◆設問内容…「必修領域」に6時間の選択制が導入される場合、優先して受講したい項目を以下よりふたつ選び、番号に○をしてください。9は必須となる予定のため、これ以外からふたつ選んでください。

- 9.国の教育政策や世界の教育の動向
- 10.英語教育
- 11.道徳教育
- 12.教育相談(いじめ・不登校対応を含む)
- 13.進路指導・キャリア教育
- 14.国際理解・異文化理解教育
- 15.教育の情報化(ICTを利用した指導、情報教育【情報モラルを含む】等)
- 16.学校・家庭・地域の連携・協働
- 17.防災教育
- 18.食に関する指導(アレルギー対応を含む)

	回答人数	%
10のみ回答	0	0.0%
10,11	17	8.3%
10,12	9	4.4%
10,13	1	0.5%
10,14	5	2.5%
10,15	8	3.9%
10,16	1	0.5%
10,17	1	0.5%
10,18	3	1.5%
11のみ回答	0	0.0%
11,12	17	8.3%
11,13	1	0.5%
11,14	2	1.0%
11,15	8	3.9%
11,16	1	0.5%
11,17	2	1.0%
11,18	5	2.5%
12のみ回答	1	0.5%
12,13	6	2.9%
12,14	2	1.0%
12,15	32	15.7%
12,16	14	6.9%
12,17	5	2.5%
12,18	10	4.9%
13のみ回答	0	0.0%
13,14	1	0.5%
13,15	1	0.5%
13,16	1	0.5%
13,17	1	0.5%
13,18	1	0.5%
14のみ回答	0	0.0%
14,15	15	7.4%
14,16	0	0.0%
14,17	0	0.0%
14,18	2	1.0%
15のみ回答	0	0.0%
15,16	6	2.9%
15,17	9	4.4%
15,18	6	2.9%
16のみ回答	0	0.0%
16,17	0	0.0%
16,18	3	1.5%
17のみ回答	0	0.0%
17,18	2	1.0%
18のみ回答	0	0.0%
無回答	5	2.5%
合計	204	



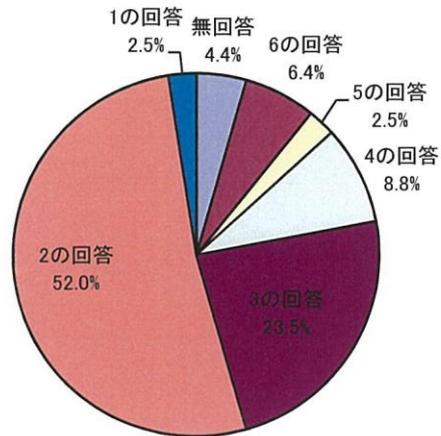
★特支・道徳・ICT・生徒指導・小学校英語

設問9の単純集計

◆設問内容…最後にあなた自身についてお伺いします。該当する区分に○をしてください。
【更新目的及び在籍する学校種】

- 1. 幼免(幼稚園)
- 2. 小免(小学校)
- 3. 中免(中学校)
- 4. 高免(高等学校)
- 5. 特支免(特別支援学校)
- 6. その他(複数回答、教育委員会等)

	回答人数	%
1の回答	5	2.5%
2の回答	106	52.0%
3の回答	48	23.5%
4の回答	18	8.8%
5の回答	5	2.5%
6の回答	13	6.4%
無回答	9	4.4%
合計	204	



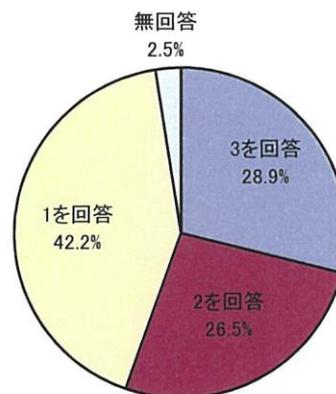
★特支・道徳・ICT・生徒指導・小学校英語

設問9の単純集計

◆設問内容…最後にあなた自身についてお伺いします。該当する区分に○をしてください。
【年齢】

- 1. 30代
- 2. 40代
- 3. 50代

	回答人数	%
1を回答	86	42.2%
2を回答	54	26.5%
3を回答	59	28.9%
無回答	5	2.5%
合計	204	



★特支・道徳・ICT・生徒指導・小学校英語

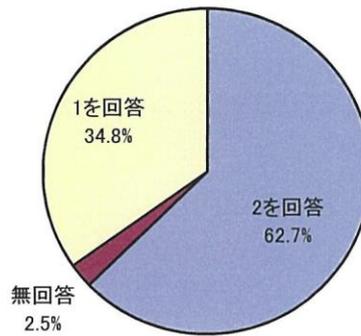
設問9の単純集計

◆設問内容…最後にあなた自身についてお伺いします。該当する区分に○をしてください。

【性別】

- 1.男
- 2.女
- 3.無回答

	回答人数	%
1を回答	71	34.8%
2を回答	128	62.7%
無回答	5	2.5%
合計	204	



★特支・道徳・ICT・生徒指導・小学校英語

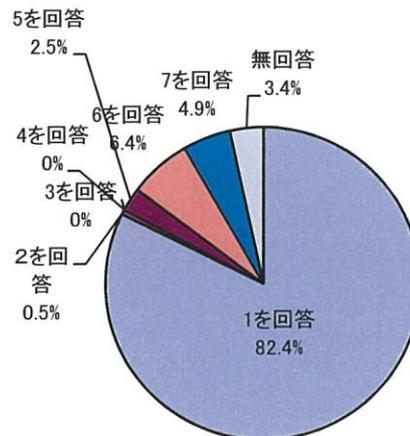
設問9の単純集計

◆設問内容…最後にあなた自身についてお伺いします。該当する区分に○をしてください。

【職名】

- 1.教諭
- 2.助教諭
- 3.養護教諭
- 4.養護助教諭
- 5.常勤講師
- 6.非常勤講師
- 7.その他

	回答人数	%
1を回答	168	82.4%
2を回答	1	0.5%
3を回答	0	0.0%
4を回答	0	0.0%
5を回答	5	2.5%
6を回答	13	6.4%
7を回答	10	4.9%
無回答	7	3.4%
合計	204	



平成 26 年度

免許更新制高度化のための調査研究事業 報告書

平成 27 年 3 月発行

編集・発行 玉川大学 教師教育リサーチセンター
〒194-8610

東京都町田市玉川学園 6-1-1

T E L : 042-739-8219

F A X : 042-739-8857

印 刷 日新印刷株式会社